

食品安全モニター課題報告
「食品の安全性に関する情報等について」(平成 25 年 2 月実施)の結果

1. 調査目的

食品安全委員会では、食品安全モニターの方を対象に、食品の安全性に関する情報等について、平成 25 年 2 月 19 日から 3 月 4 日を調査実施期間として、食品安全モニター 470 名を対象に調査を実施(有効回答数 284 名 (60.4%))した。

2. 調査項目

調査項目は、次の 2 項目である。

- 1) 食品の安全性に関する情報について
(ハザードに関する情報の必要性、ハザード情報の収集源等)
- 2) 食品安全委員会発行のメールマガジンについて
(よく読んでいる項目、分かりやすさ等)

3. 実施期間

平成 25 年 2 月 19 日～3 月 4 日

4. 対象

食品安全モニター 470 名
有効回答数 284 名 (有効回答率 : 60.4%)

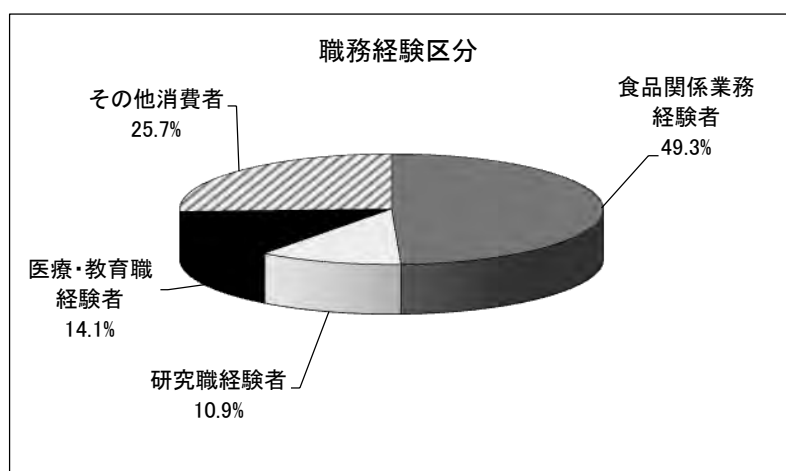
1) 食品安全モニターの回答者数の内訳

① 男女別、年齢別

	男性	女性	人数計	割合
20～29 歳	0 人	6 人	6 人	2.1%
30～39 歳	19 人	34 人	53 人	18.7%
40～49 歳	25 人	43 人	68 人	23.9%
50～59 歳	36 人	27 人	63 人	22.2%
60～69 歳	61 人	16 人	77 人	27.1%
70 歳以上	14 人	3 人	17 人	6.0%
全体	155 人	129 人	284 人	—
割合	54.6%	45.4%	—	100.0%

② 職務経験区分別

食品関係業務経験者	・現在もしくは過去において、食品の生産、加工、流通、販売等に関する職業(飲食 物調理従事者、会社・団体等役員などを含む)に就いた経験を5年以上有している 方 ・過去に食品の安全に関する行政に従事した経験を5年以上有している方	140人 (49.3%)
研究職経験者	・現在もしくは過去において、試験研究機関(民間の試験研究機関を含む)、大学等 で食品の研究に関する専門的な職業に就いた経験を5年以上有している方	31人 (10.9%)
医療・教育職経験者	・現在もしくは過去において、医療・教育に関する職業(医師、獣医師、薬剤師、看 護師、小中高校教師等)に就いた経験を5年以上有している方	40人 (14.1%)
その他消費者一般	・上記の項目に該当しない方	73人 (25.7%)

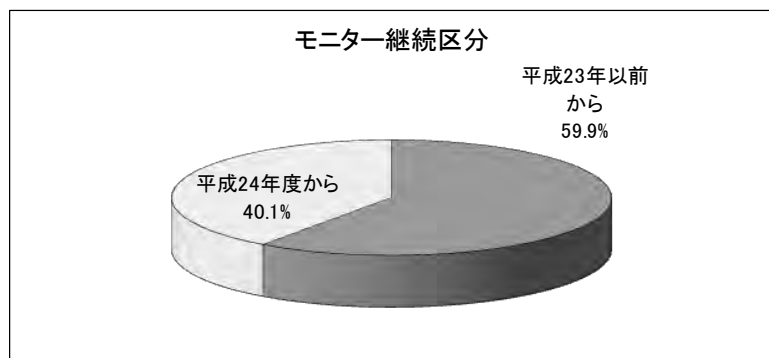


・ 男女別、年代区分別内訳

	男女別		年代区分別			全体
	男性	女性	20~39歳	40~59歳	60歳以上	
食品関係業務経験者	100人	40人	27人	57人	56人	140人
	71.4%	28.6%	19.2%	40.7%	40%	100.0%
研究職経験者	26人	5人	5人	15人	11人	31人
	83.9%	16.1%	16.1%	48.4%	35.5%	100.0%
医療・教育職経験者	10人	30人	7人	19人	14人	40人
	25.0%	75.0%	17.5%	47.5%	35%	100.0%
その他消費者一般	19人	54人	20人	40人	13人	73人
	26.0%	74.0%	27.4%	54.8%	17.8%	100.0%

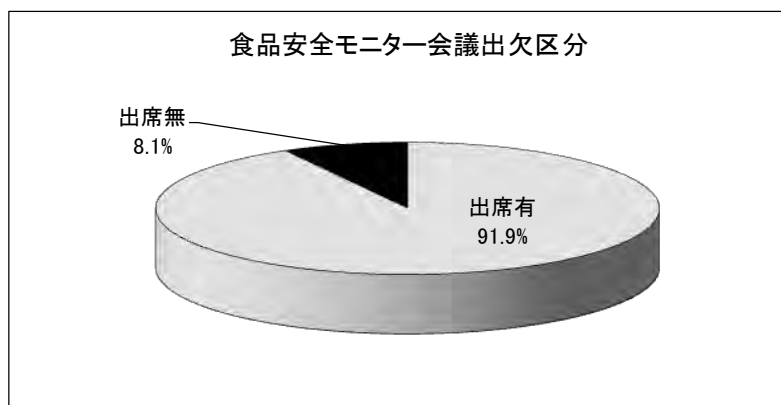
③ モニター継続区分別：

- 過去においても食品安全モニターに依頼されていた方
(以下、「経験モニター」という) 170人 (59.9%)
- 平成24年度から、食品安全モニターに依頼された方
(以下、「新規モニター」という) 114人 (40.1%)



④ 食品安全モニター会議出席区分別：

- これまでに食品安全モニター会議に出席したことがある方 261人 (91.9%)
- これまでに食品安全モニター会議に出席したことがない方 23人 (8.1%)



1) 食品の安全性に関する情報について

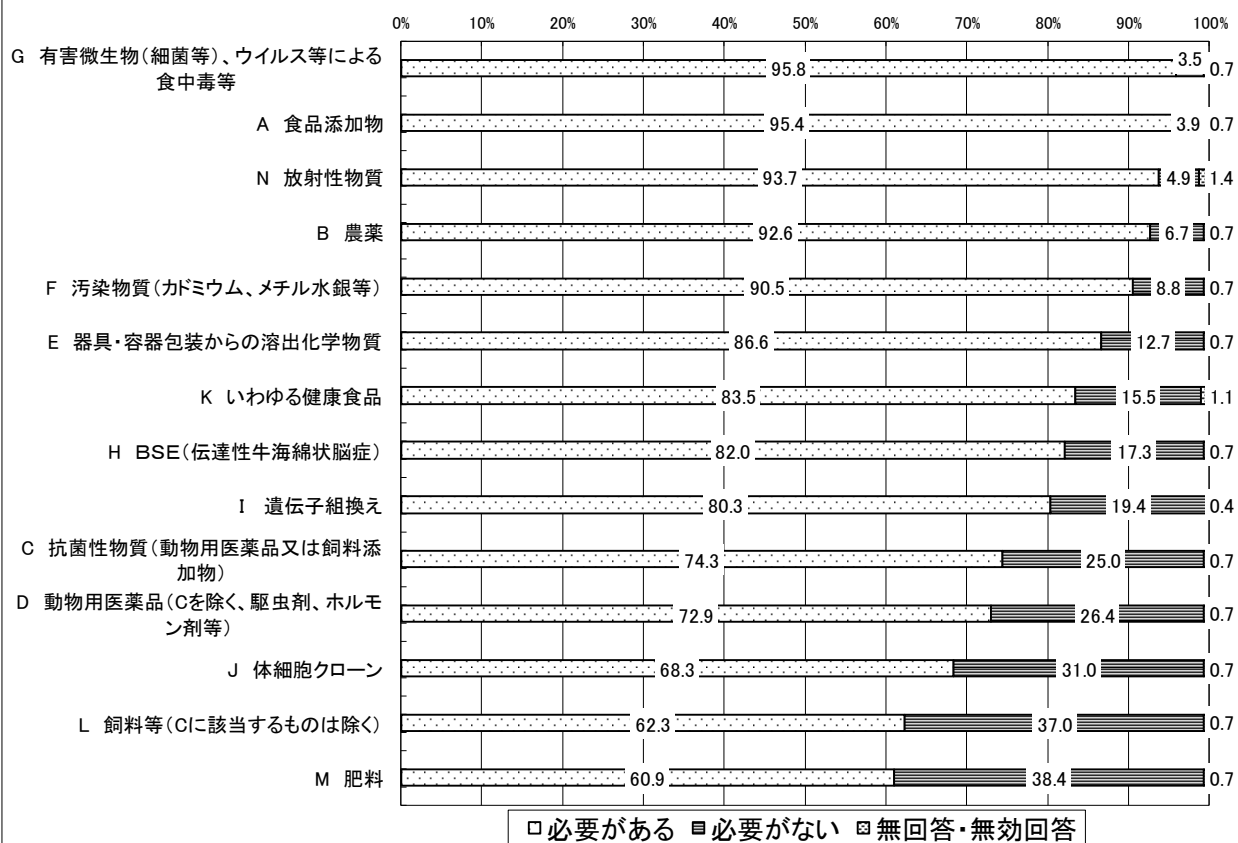
①ハザードに関する情報の必要性 (問1)

問1 A～Nに掲げるハザードについて、情報が必要と考えますか。それぞれのハザードごとに選択肢1又は2のどちらか近い方を必ず1つ選んでください。

【ハザード】	【選択肢】
A 食品添加物	1 必要がある
B 農薬	2 必要がない
C 抗菌性物質 (動物用医薬品又は飼料添加物)	
D 動物用医薬品 (Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等)	
E 器具・容器包装からの溶出化学物質	
F 汚染物質 (カドミウム、メチル水銀等)	
G 有害微生物 (細菌等)、ウイルス等による食中毒等	
H B S E (伝達性牛海綿状脳症)	
I 遺伝子組換え	
J 体細胞クローン	
K いわゆる健康食品	
L 飼料等 (Cに該当するものは除く)	
M 肥料	
N 放射性物質	

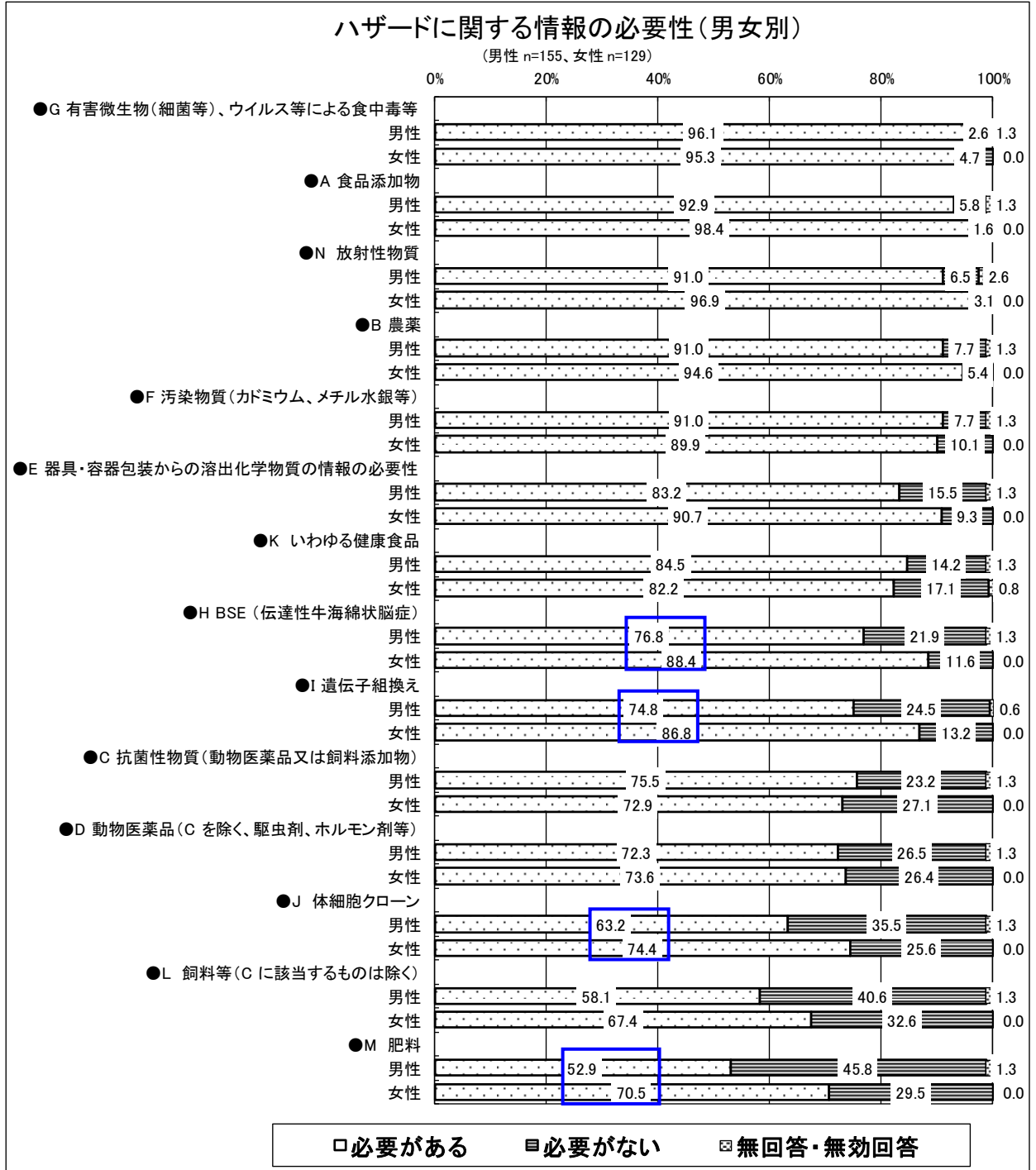
- ◆ ハザードに関する情報について「必要がある」との回答の割合は、「有害微生物 (細菌等)、ウイルス等」が95.8%と最も高く、次いで「食品添加物」95.4%、「放射性物質」93.7%、「農薬」92.6%、「汚染物質 (カドミウム、メチル水銀等)」90.5%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」86.6%、「いわゆる健康食品」83.5%、「B S E (伝達性牛海綿状脳症)」82.0%、「遺伝子組換え」80.3%、「抗菌性物質 (動物用医薬品又は飼料添加物)」74.3%、「動物用医薬品 (抗菌性物質を除く、駆虫剤、ホルモン剤等)」72.9%、「体細胞クローン」68.3%、「飼料等 (Cに該当するものは除く)」62.3%、「肥料」60.9%の順である。
- ◆ 一方、「必要がない」との回答の割合が高いハザードは「肥料」が38.4%と最も高く、次いで「飼料等 (Cに該当するものは除く)」37.0%、「体細胞クローン」31.0%、「動物用医薬品 (Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等)」26.4%、「抗菌性物質 (動物用医薬品又は飼料添加物)」25.0%、「遺伝子組換え」19.4%、「B S E (伝達性牛海綿状脳症)」17.3%、「いわゆる健康食品」15.5%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」12.7%、「汚染物質 (カドミウム、メチル水銀等)」8.8%、「農薬」6.7%、「放射性物質」4.9%、「食品添加物」3.9%、「有害微生物 (細菌等)、ウイルス等」3.5%の順である。

ハザードに関する情報の必要性(全体)



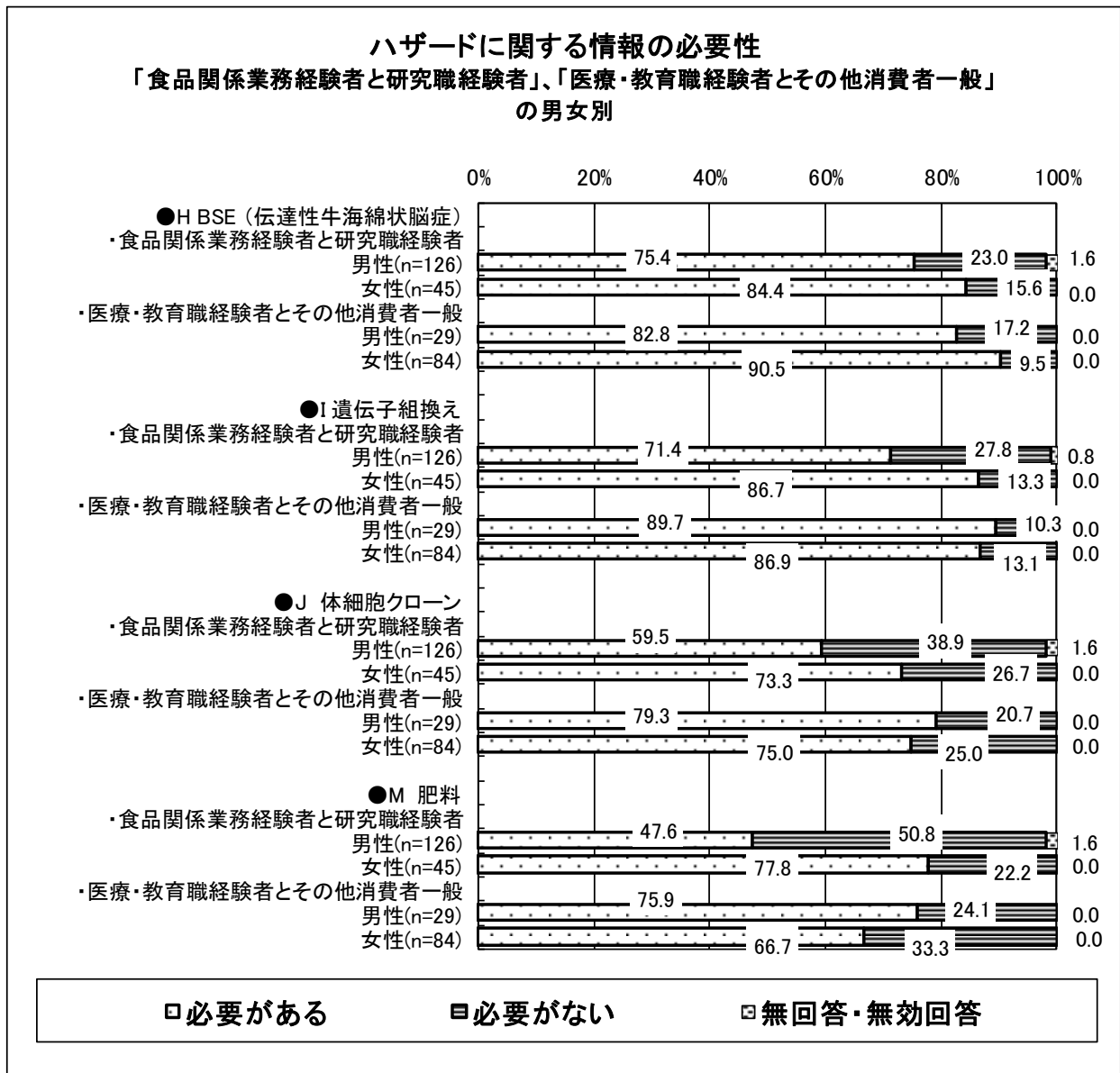
＜ハザードに関する情報の必要性についての男女別回答割合＞

◆ 女性の方が男性より「情報が必要である」との回答割合が高く、その差が10%以上であったハザードは、「肥料」(女性が17.6%多い。以下同じ。)、「遺伝子組換え」(12.0%)、「BSE(伝達性牛海綿状脳症)」(11.6%)、「体細胞クローン」(11.2%)であった。



◆ モニターの職務区分（2 ページ参照）は、男性は「食品関係業務経験者」及び「研究職経験者」が多く、女性は「医療・教育職経験者」及び「その他一般消費者」が多い。そこで、前ページの内容について、職務経験区分による影響を検討した。

女性の方が男性より「情報が必要である」との回答の割合が高い4つのハザードを、更に「食品関係業務経験者」及び「研究職経験者」の合計と、「医療・教育職経験者」及び「その他一般消費者」の合計を比較したところ、BSEについてはいずれも女性の方が男性より「情報が必要である」との回答の割合が高いが、その他の3つのハザードについては、「医療・教育職経験者」及び「その他一般消費者」の合計の、男女による差は小さく（肥料は男性の方が多い）、職務部分も結果に影響していると考えられた。



②ハザードに関する情報を必要とする理由（問2）

問2 問1で選択肢の「1 必要がある」と回答したハザードがある方にお聞きします。

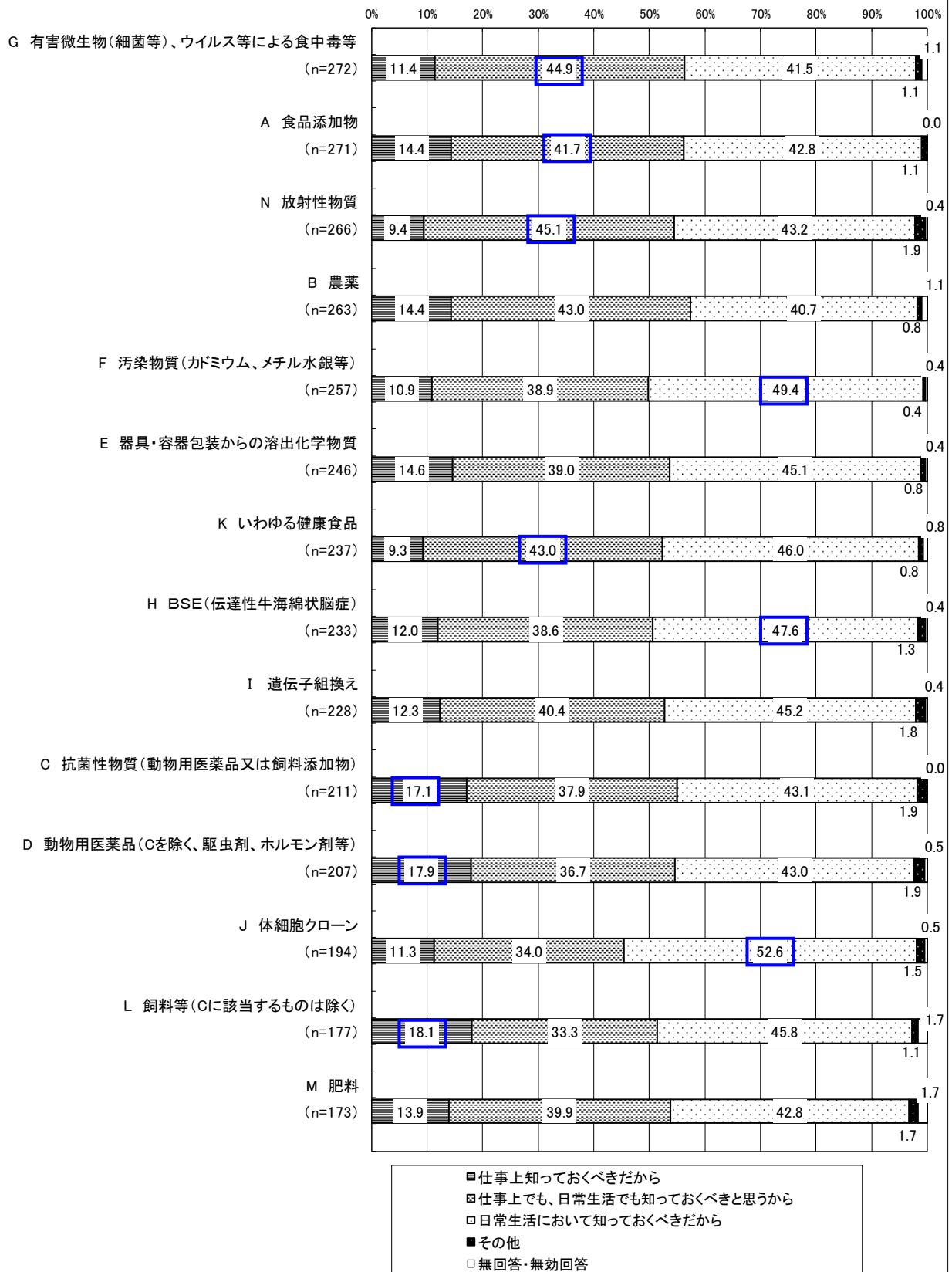
「1 必要がある」と回答したハザードについて、その理由を選択肢1～4の中から1つずつ選んでください。

【選択肢】

- 1 仕事上知っておくべきだから
- 2 日常生活において知っておくべきと思うから
- 3 仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから
- 4 その他（具体的に ）

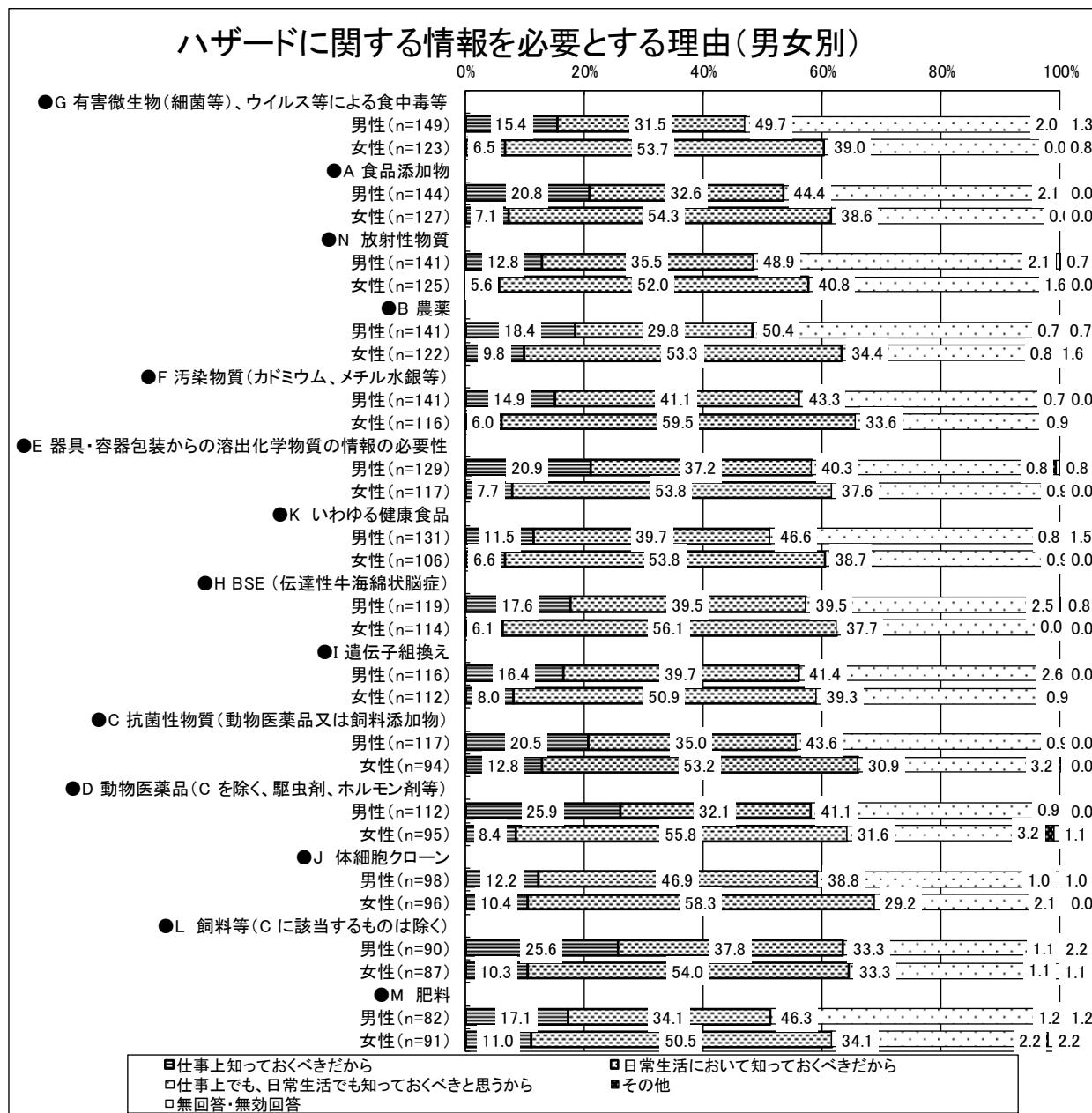
- ◆ 「仕事上知っておくべきだから」との回答の割合が高いものは、「飼料等（Cに該当するものは除く）」が18.1%と最も高く、次いで「動物用医薬品（Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等）」17.9%、「抗菌性物質（動物用医薬品又は飼料添加物）」17.1%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」14.6%、「食品添加物」、「農薬」それぞれ14.4%、「肥料」13.9%、「遺伝子組換え」12.3%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」12.0%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」11.4%、「体細胞クローン」11.3%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」10.9%、「放射性物質」で9.4%、「いわゆる健康食品」9.3%の順である。
- ◆ 「日常生活において知っておくべきだから」との回答の割合が高いものは、「体細胞クローン」が52.6%と最も高く、次いで「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」49.4%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」47.6%、「いわゆる健康食品」46.0%、「飼料等（Cに該当するものは除く）」45.8%、「遺伝子組換え」45.2%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」45.1%、「放射性物質」43.2%、「抗菌性物質（動物用医薬品又は飼料添加物）」43.1%、「動物用医薬品（Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等）」43.0%、「食品添加物」、「肥料」42.8%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」41.5%、「農薬」40.7%の順である。
- ◆ 「仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから」との回答の割合が高いものは、「放射性物質」が45.1%と最も高く、次いで「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」44.9%、「農薬」「いわゆる健康食品」43.0%、「食品添加物」41.7%、「遺伝子組換え」40.4%、「肥料」39.9%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」39.0%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」38.9%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」38.6%、「抗菌性物質（動物用医薬品又は飼料添加物）」37.9%、「動物用医薬品（Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等）」36.7%、「体細胞クローン」34.0%、「飼料等（Cに該当するものは除く）」33.3%の順である。

ハザードに関する情報を必要とする理由(全体・問1で情報を必要とするとの回答が多かったもの順)



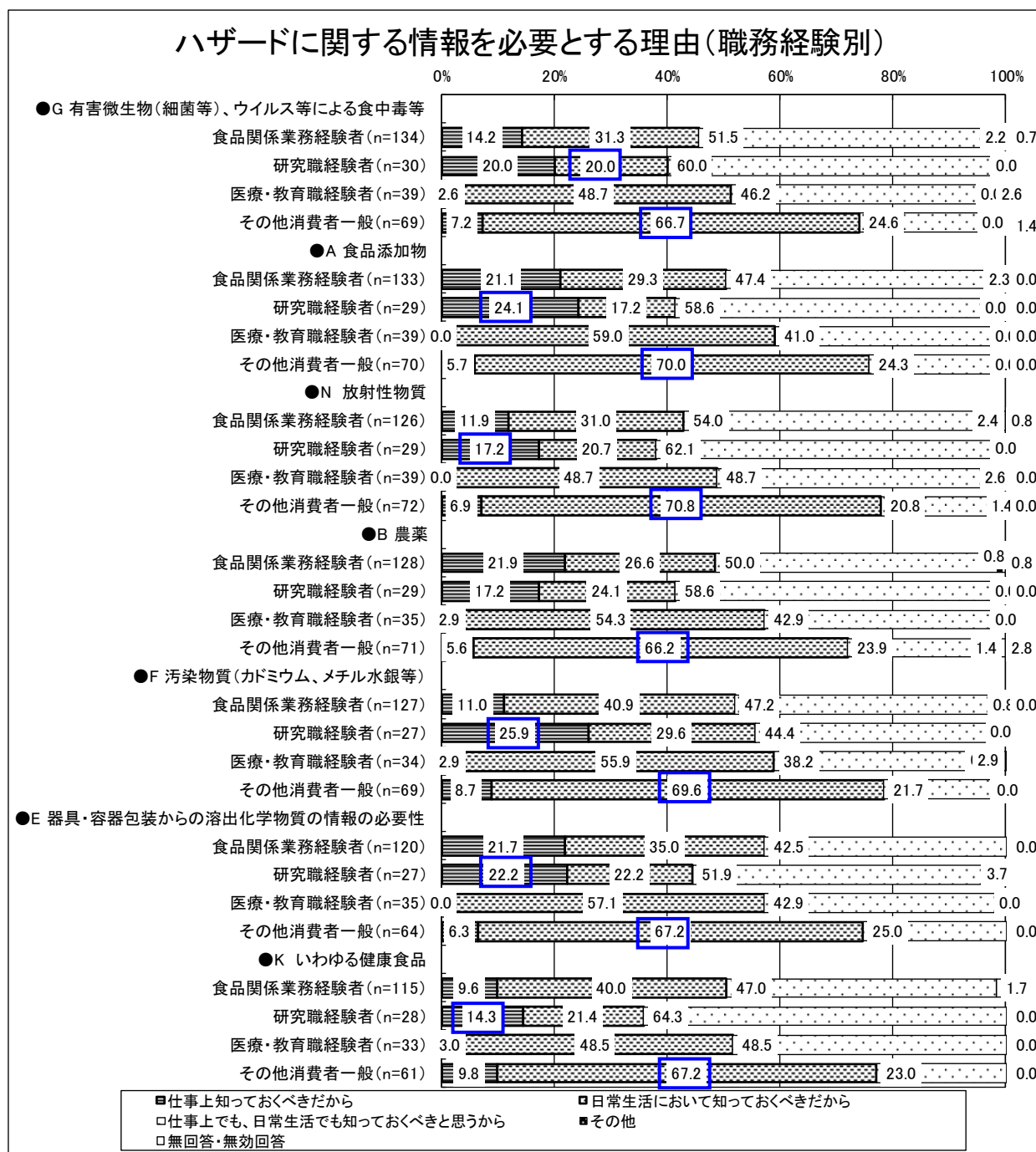
＜ハザードに関する情報を必要とする理由についての男女別回答割合＞

- ◆ 回答割合を男女別で比べると、男性で「仕事上知っておくべきだから」との回答割合は、すべてのハザードで女性に比べ高い。
- ◆ 女性で「日常生活において知っておくべきだから」との回答割合は、男性に比べ高い。「仕事上でも、日常生活でも知っておくべきだから」との回答割合は、飼料等（抗菌性物質に該当するものは除く）においては男女で同じであったが、それ以外のハザードでは男性の方が高い。

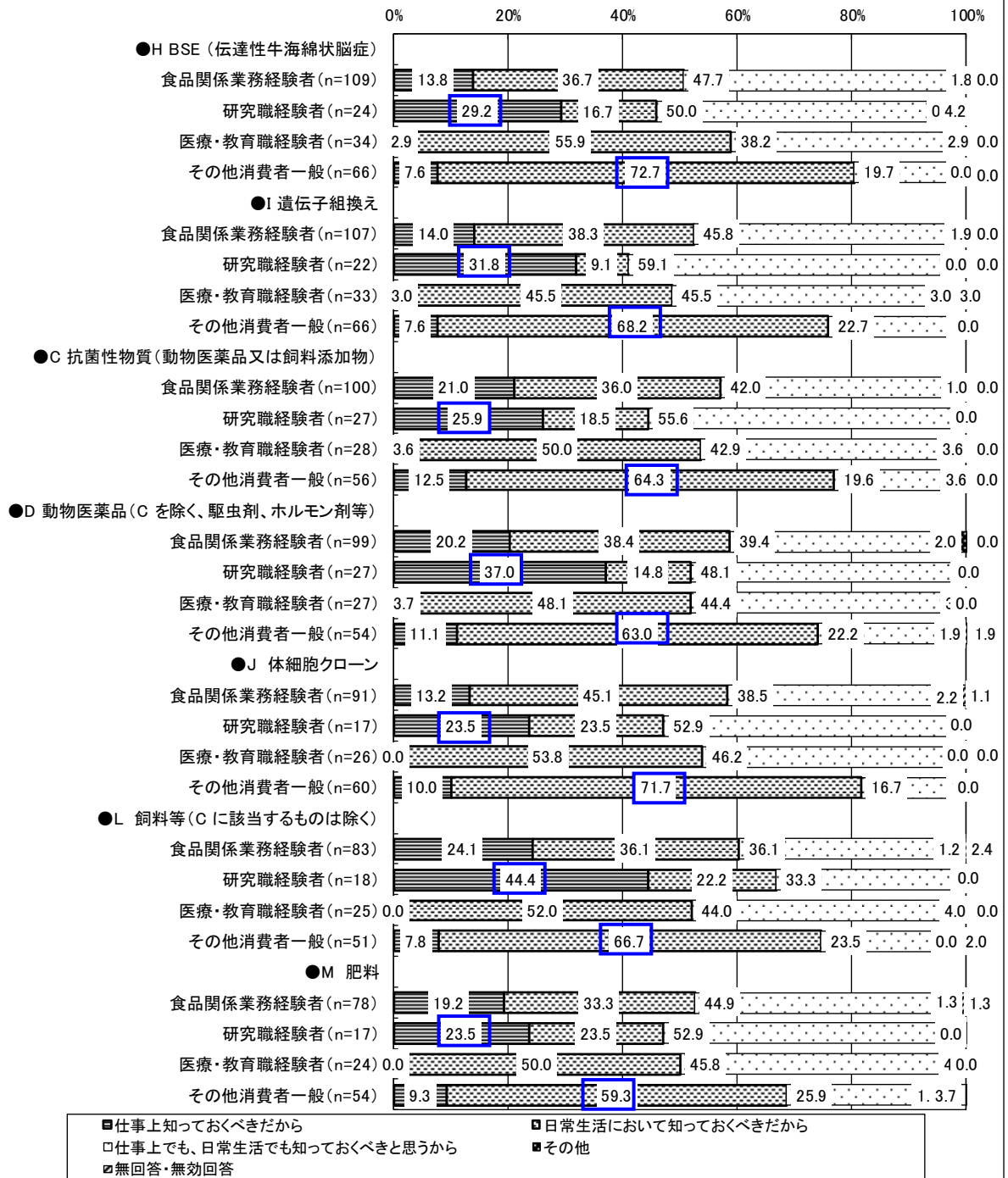


＜ハザードに関する情報を必要とする理由についての職務経験別回答割合＞

- ◆ 研究職経験者では、「農薬」を除くすべてのハザードで、「仕事上知っておくべきだから」との回答の割合が他の職務経験区分に比べ特に高い。一方、その他消費者一般では、すべてのハザードで、「日常生活において知っておくべきだから」との回答の割合が他の職務経験区分に比べ特に高い。



ハザードに関する情報を必要とする理由(職務経験別・続き)



問2：4 その他 (ハザードに関する情報を必要とするその他の理由：回答者数 39名)

「日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う」、「知識として知っておく必要があると思ったから」等の回答があった。

③ハザードに関する情報収集状況（問3）

問3 問1で選択肢の「1 必要がある」と回答したハザードがある方にお聞きします。

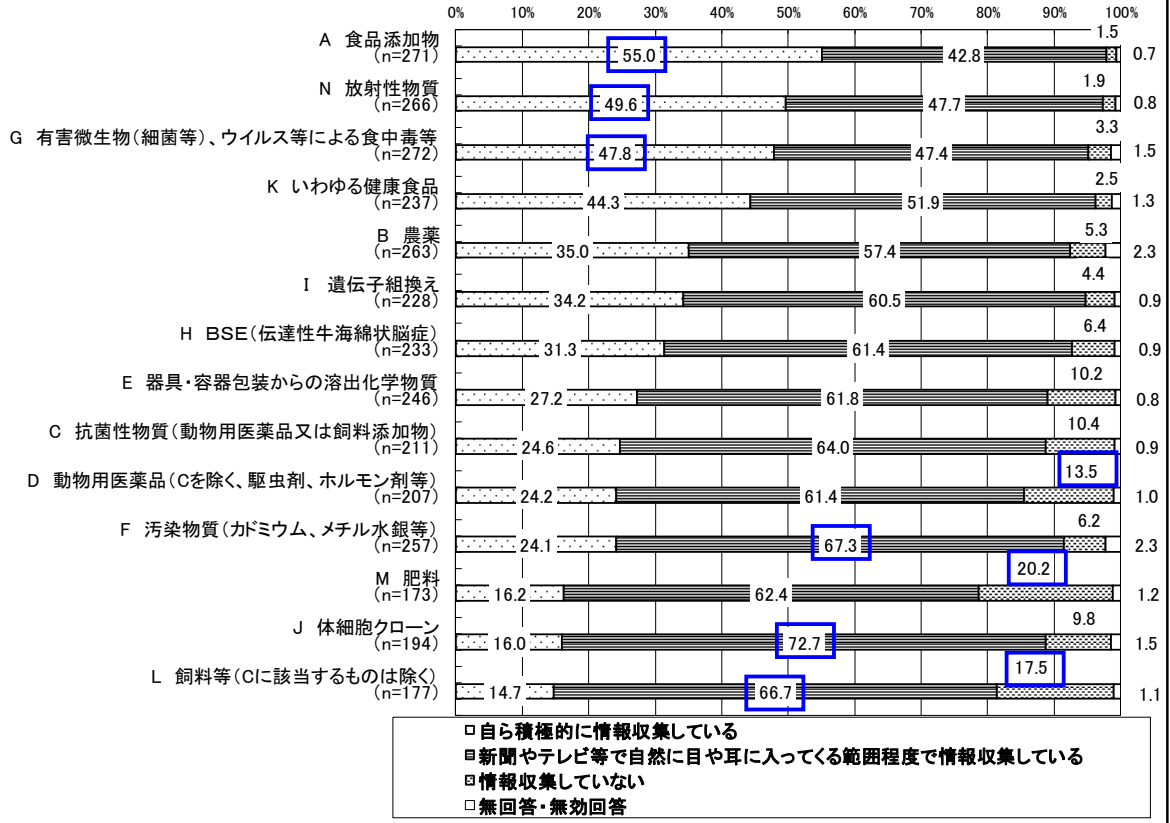
「1 必要がある」と回答したハザードについて、あなたはどの程度、情報収集をしていますか。選択肢1～3の中から1つずつ選んでください。

【選択肢】

- 1 自ら積極的に情報収集している
- 2 新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している
- 3 情報収集していない

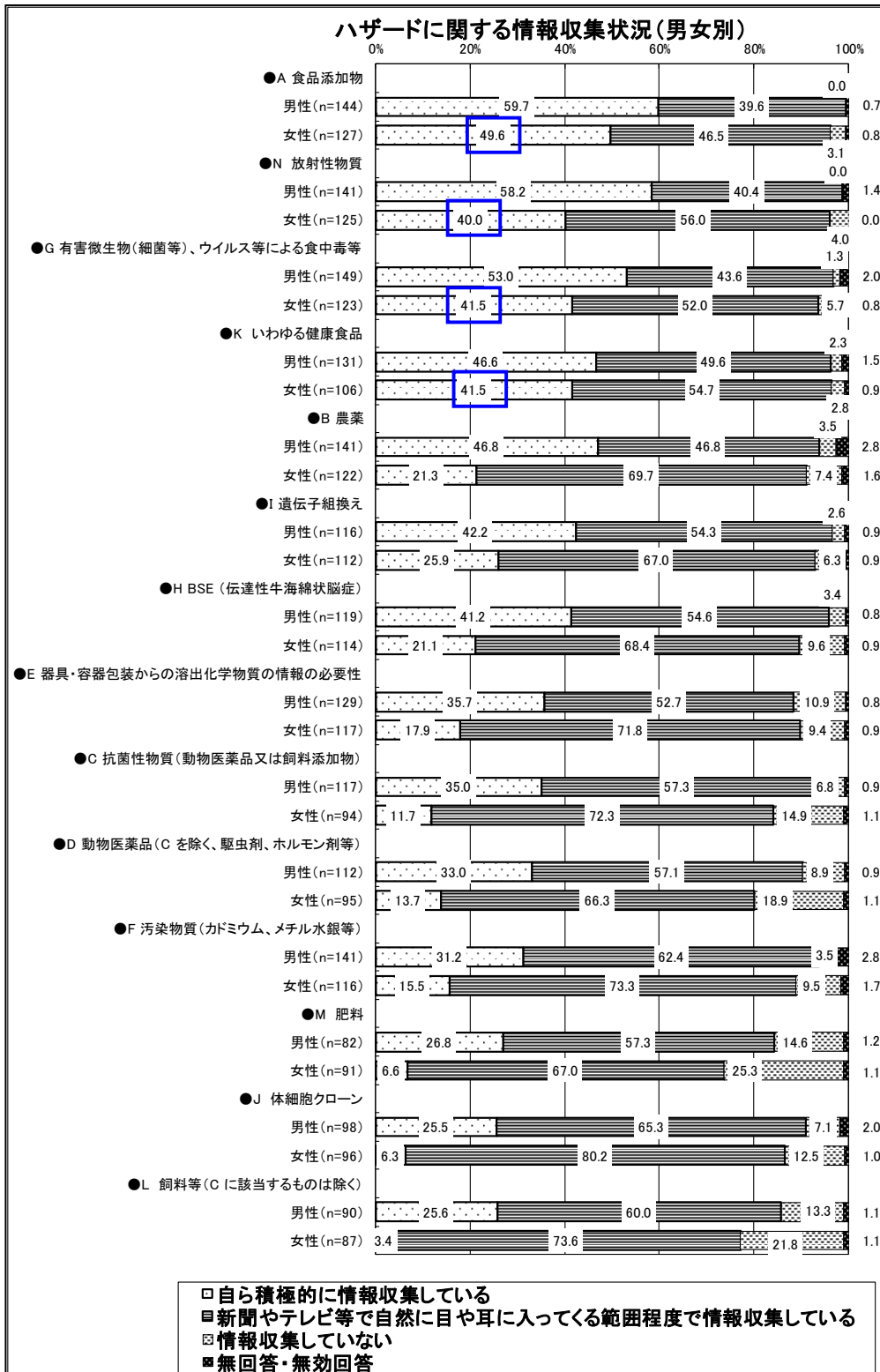
- ◆ 「自ら積極的に情報収集している」との回答の割合が高いものは、「食品添加物」が55.0%と最も高く、次いで「放射性物質」49.6%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」47.8%、「いわゆる健康食品」44.3%、「農薬」35.0%、「遺伝子組換え」34.2%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」31.3%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」27.2%、「抗菌性物質（動物用医薬品又は飼料添加物）」24.6%、「動物用医薬品（Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等）」24.2%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」24.1%、「肥料」で16.2%、「体細胞クローン」16.0%、「飼料等（Cに該当するものは除く）」14.7%の順である。
- ◆ 「新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる程度で情報収集している」との回答の割合が高いものは、「体細胞クローン」が72.7%と最も高く、次いで「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」67.3%、「飼料等（Cに該当するものは除く）」66.7%、「抗菌性物質（動物用医薬品又は飼料添加物）」64.0%、「肥料」62.4%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」61.8%、「動物用医薬品（Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等）」「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」61.4%、「遺伝子組換え」60.5%、「農薬」57.4%、「いわゆる健康食品」51.9%、「放射性物質」47.7%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」で47.4%、「食品添加物」42.8%の順である。
- ◆ 「情報収集していない」との回答の割合が高いものは、「肥料」で20.2%と最も高く、次いで「飼料等（Cに該当するものは除く）」17.5%、「動物用医薬品（Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等）」13.5%、「抗菌性物質（動物用医薬品又は飼料添加物）」10.4%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」10.2%、「体細胞クローン」9.8%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」6.4%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」6.2%、「農薬」5.3%、「遺伝子組換え」4.4%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」3.3%、「いわゆる健康食品」で2.5%、「放射性物質」1.9%、「食品添加物」1.5%の順である。

ハザードに関する情報収集状況(全体)



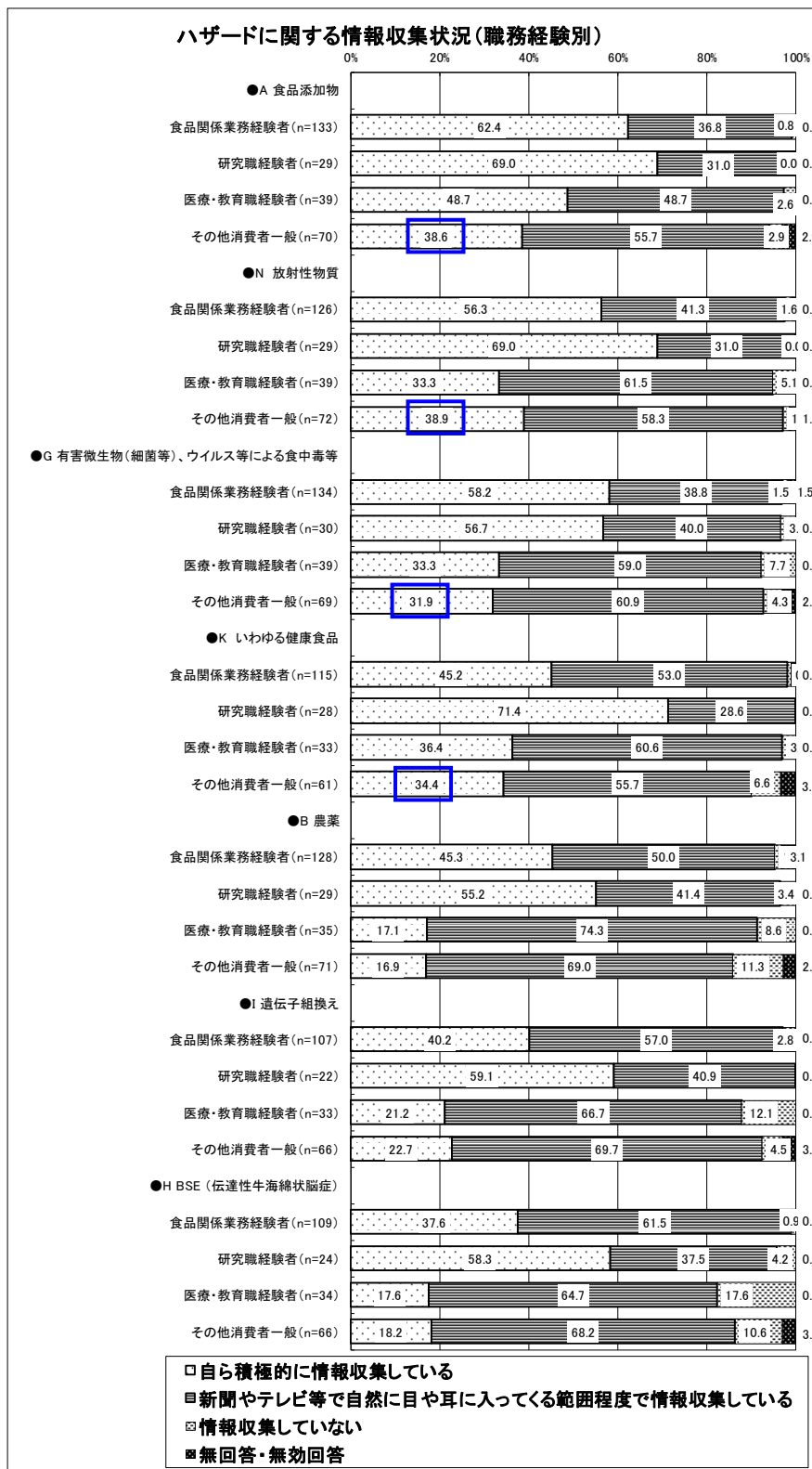
<ハザードに関する情報収集状況についての男女別回答割合>

- ◆ 回答割合を男女別で比べると、男性で「自ら積極的に情報収集している」との回答の割合は、すべてのハザードで女性に比べ高い。女性で「自ら積極的に情報収集している」との回答割合が40%を超えたハザードは「食品添加物」(49.6%)、「有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒」、「いわゆる健康食品」(それぞれ41.5%)、放射性物質(40.0%)であった。女性で「新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる程度で情報収集している」との回答割合は、すべてのハザードで男性に比べ高い。

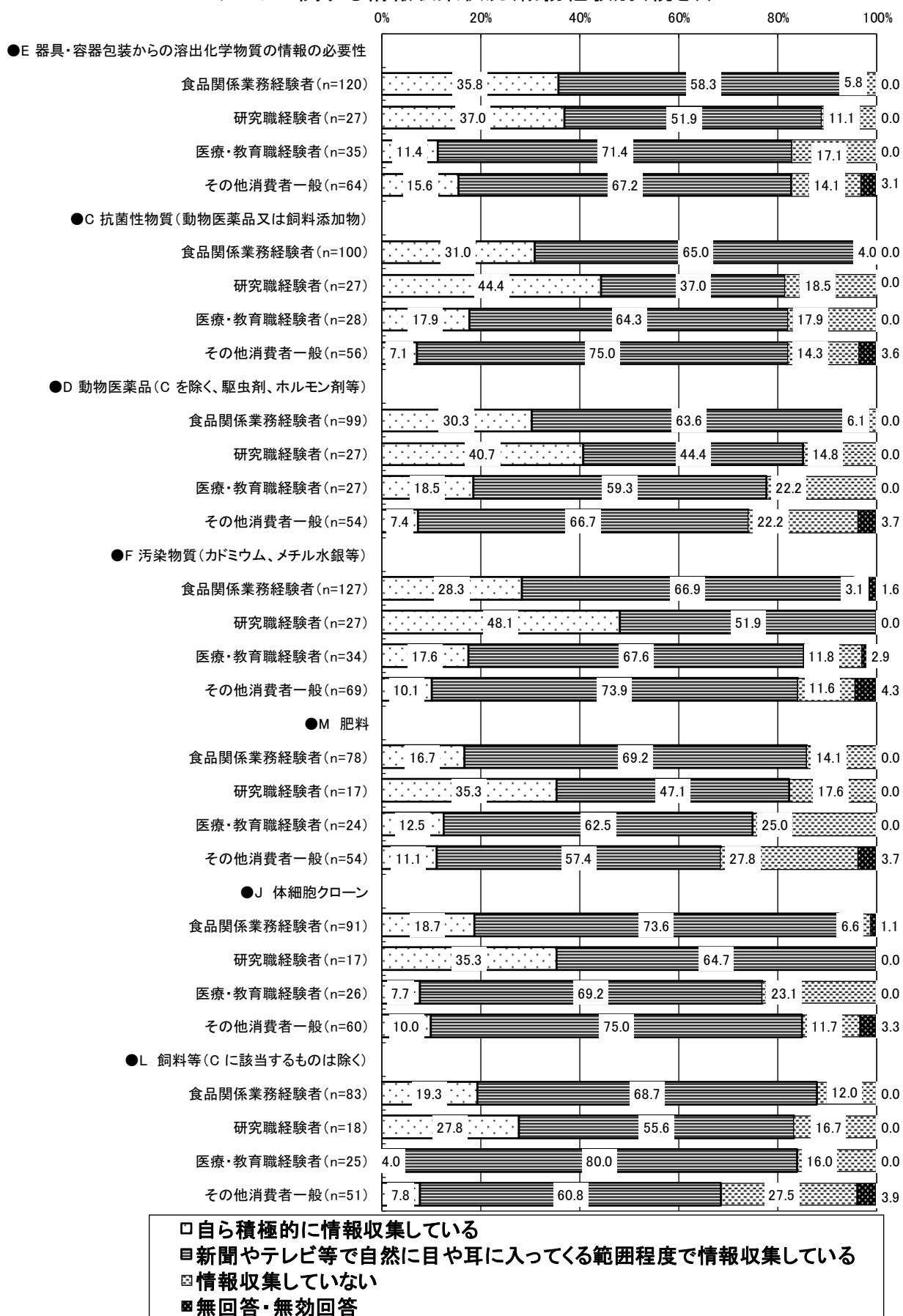


＜ハザードに関する情報収集状況についての職務経験別回答割合＞

- ◆ 「自ら積極的に情報収集している」との回答の割合は、すべてのハザードで食品関係業務経験者及び研究職経験者が医療・教育職経験者及びその他一般消費者に比べ高い。その他一般消費者において、「自ら積極的に情報収集している」との回答の割合が30%を超えるハザードは「放射性物質」(38.9%)、「食品添加物」(38.6%)、「いわゆる健康食品」(34.4%)、「有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等」(31.9%)の順である。

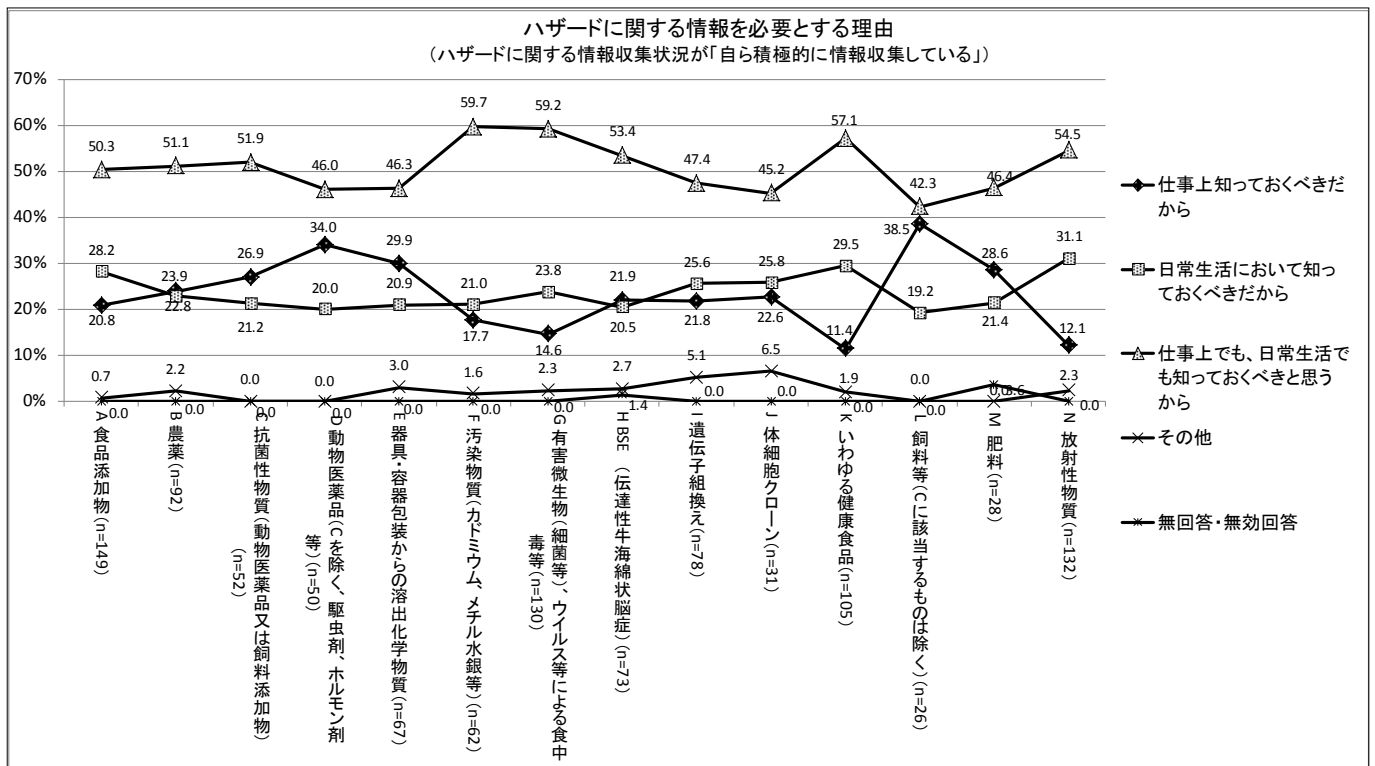


ハザードに関する情報収集状況(職務経験別(続き))



<ハザードに関する情報を「自ら積極的に情報収集している」と回答した人の、情報を必要とする理由>

◆ 「仕事上でも、日常生活でも知っておくべきだから」との回答の割合は、すべてのハザードで他の理由に比べ高い。



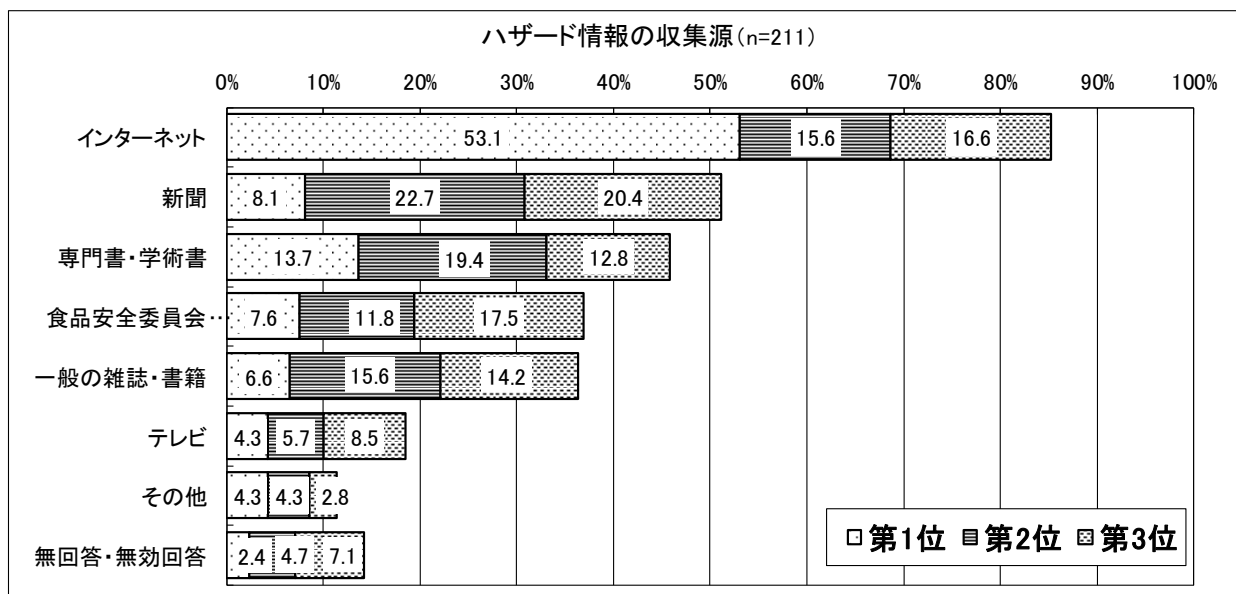
④ハザード情報の収集源（問4）

問4 問3で選択肢の「1 自ら積極的に情報収集している」と回答した方にお聞きします。
 情報収集する際にどのようなところから情報を入手していますか。選択肢1～7の中から利用頻度の高い順に3つ選んでください。

【選択肢】

- 1 一般の雑誌・書籍
- 2 専門書・学術書
- 3 新聞
- 4 食品安全委員会の季刊誌
- 5 テレビ
- 6 インターネット
- 7 その他（具体的に ）

◆ それぞれの項目について第1位との回答、第2位との回答及び第3位との回答を合計したところ、「インターネット」が85.3%と最も高く、次いで「新聞」51.2%、「専門書・学術書」45.9%、「食品安全委員会の季刊誌」36.9%、「一般の雑誌・書籍」36.4%、「テレビ」18.5%、「その他」11.4%の順である。

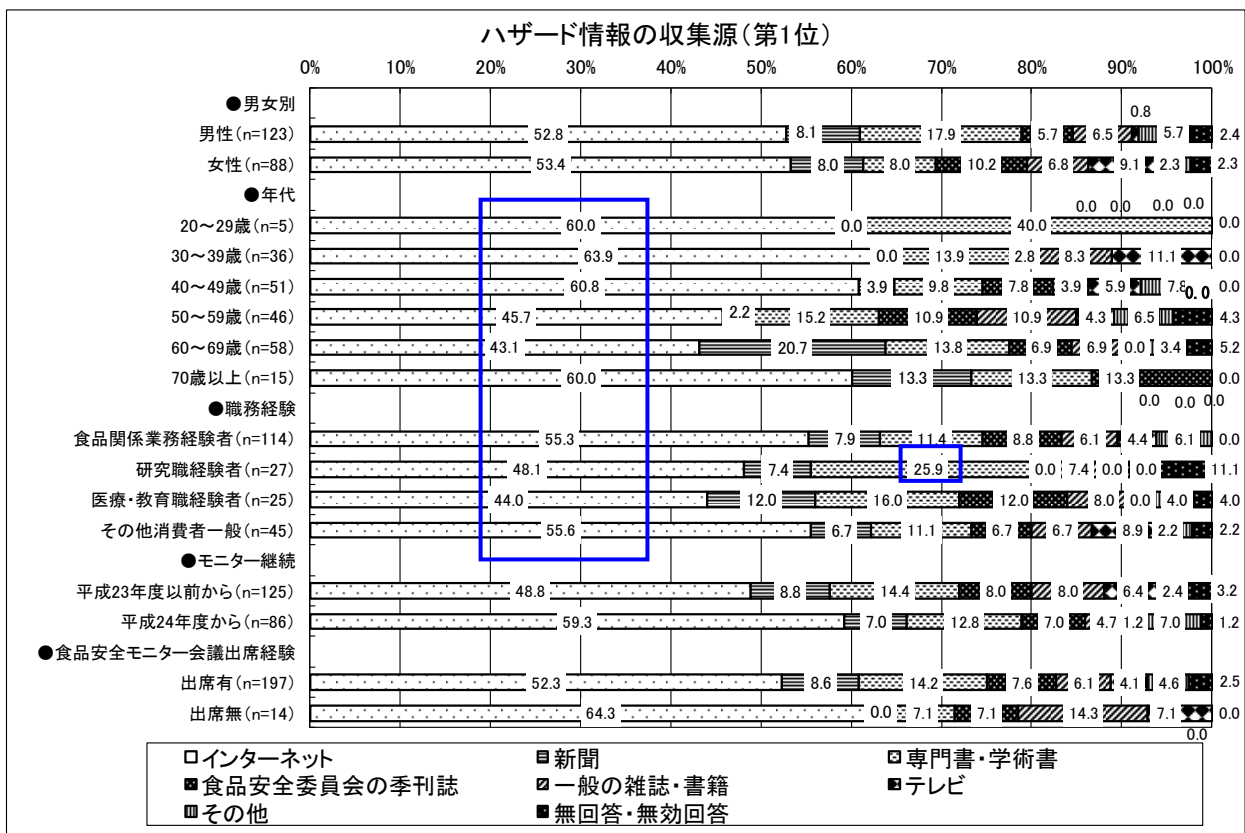


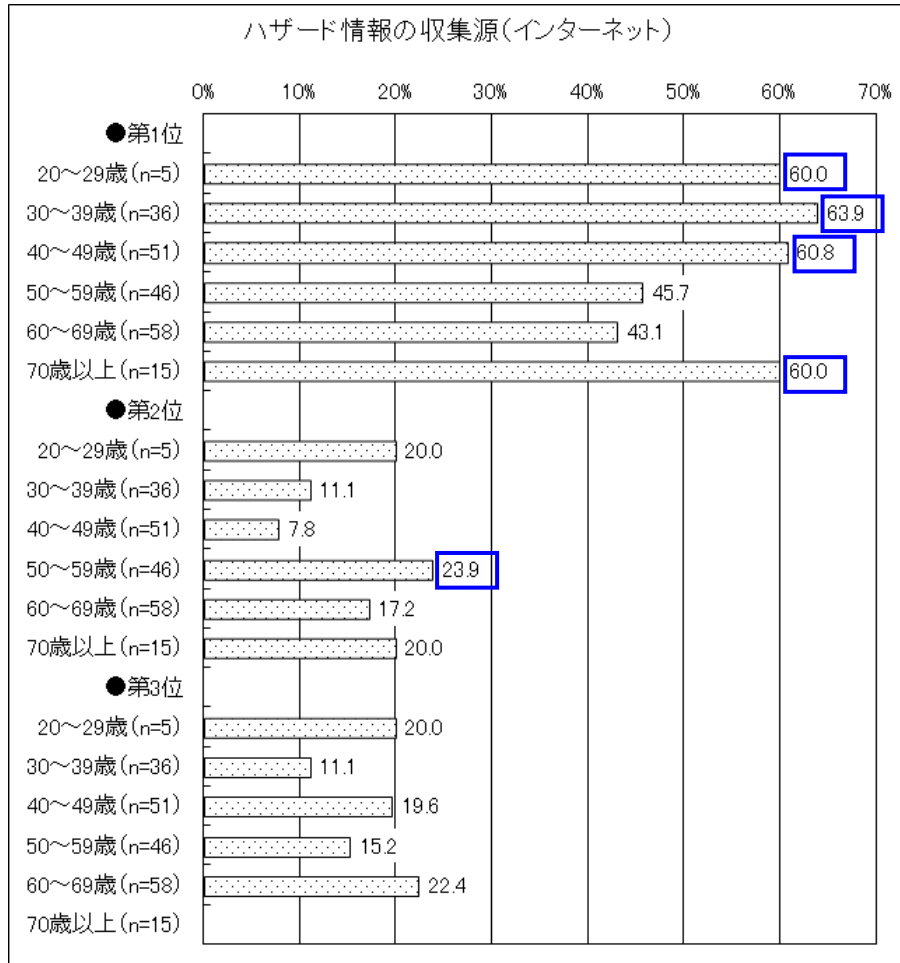
＜ハザード情報の収集源についての年代別回答割合＞

- ◆ 第1位の回答の割合を年代別に比べると、いずれの年代でも「インターネット」が高い。
- ◆ それぞれの項目について第1位との回答、第2位との回答及び第3位との回答を合計したところ、「インターネット」との回答の割合を年代別に比べると、第1位では、30～39歳が63.9%と最も高く、次いで30～39歳の60.8%、20～29歳及び70歳以上の60.0%と続く。第2位では、50～59歳が23.9%と最も高く、次いで20～29歳及び70歳以上の20.0%と続く。第3位では、60～69歳が22.4%と最も高く、次いで20～29歳の20.0%と続く。

＜ハザード情報の収集源についての職務経験別回答割合＞

- ◆ いずれの職務経験区分でも「インターネット」が高いが、研究職経験者では「専門書・学術書」が25.9%と他の職務経験区分に比べ高い。





問4：7 その他（ハザード情報のその他の収集源）

（1）1位（回答者数9名）

会社の品質保証部からの情報、関連団体の講習会・セミナー等、電力会社主催の勉強会に参加し、冊子や専門分野の先生の話の聞いたりする機会を設けている等の回答があった。

（2）2位（回答者数9名）

業界紙、食品に関するメールマガジン、食品メーカーや問屋等に直接電話して確認している等の回答があった。

（3）3位（回答者数5名）

講演会、各種省庁のメルマガ、セミナーやシンポジウム等に参加等の回答があった。

⑤情報入手先のインターネットのサイト（問5）

問5 問4で「6 インターネット」と回答した方にお聞きします。

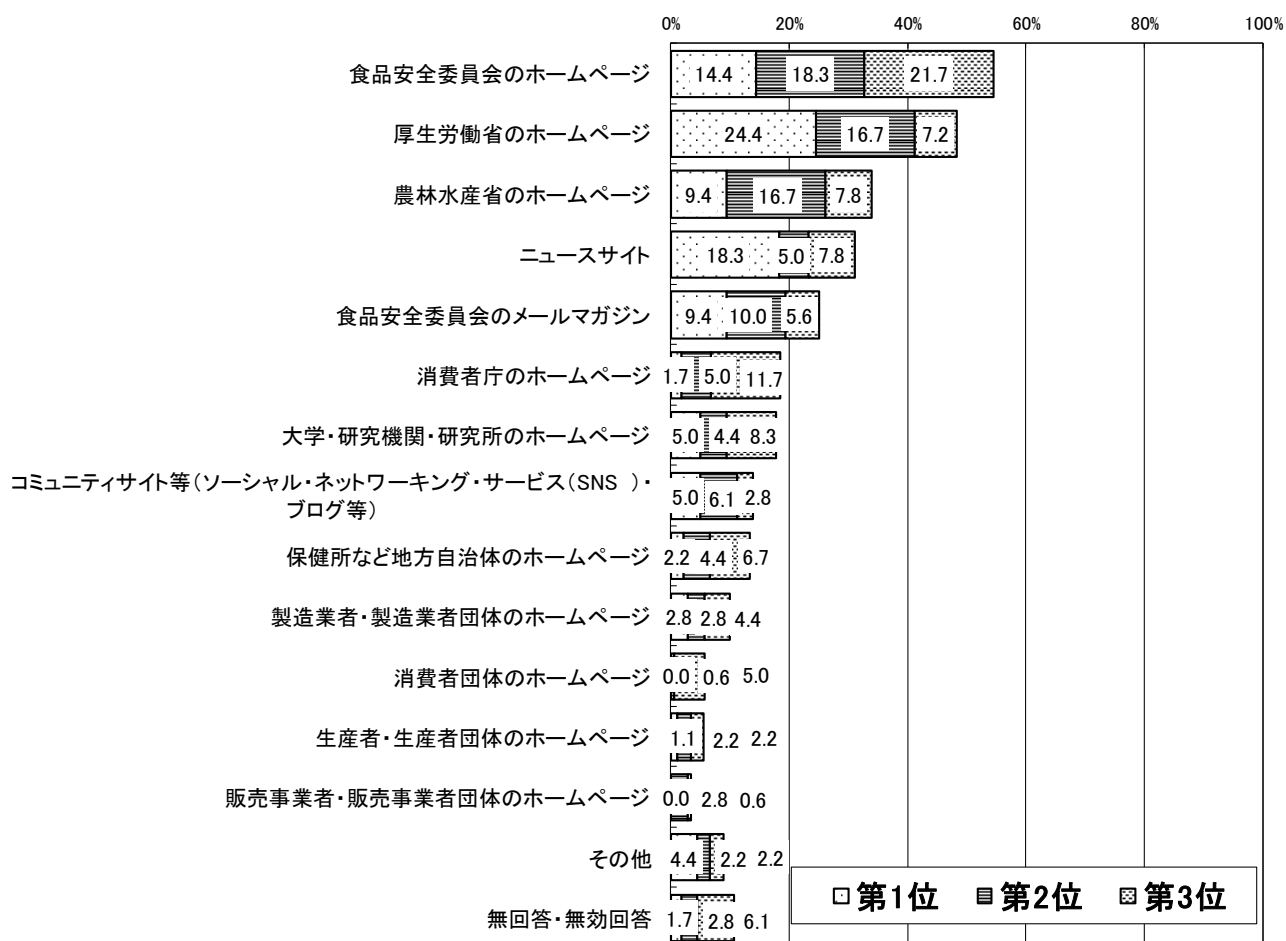
インターネットで情報収集する際にどのようなサイトから情報を入手していますか。選択肢1～14の中から利用頻度の高い順に3つ選んでください。

【選択肢】

- 1 ニュースサイト
- 2 コミュニティサイト等（ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）・ブログ等）
- 3 食品安全委員会のホームページ
- 4 食品安全委員会のメールマガジン
- 5 消費者庁のホームページ
- 6 厚生労働省のホームページ
- 7 農林水産省のホームページ
- 8 保健所などの地方自治体のホームページ
- 9 消費者団体のホームページ
- 10 生産者・生産者団体のホームページ
- 11 製造業者・製造業界団体のホームページ
- 12 販売事業者・流通業界団体のホームページ
- 13 大学・研究機関・研究所のホームページ
- 14 その他（具体的に ）

- ◆ それぞれの項目について第1位との回答、第2位との回答及び第3位との割合を合計したところ、「食品安全委員会のホームページ」で54.4%と最も高く、次いで「厚生労働省のホームページ」48.3%、「農林水産省のホームページ」33.9%、「ニュースサイト」31.1%、「食品安全委員会のメールマガジン」25.0%、「消費者庁のホームページ」18.4%、「大学・研究機関・研究所のホームページ」17.7%、「コミュニティサイト等（ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）・ブログ等）」13.9%、「保健所など地方自治体のホームページ」13.3%、「製造業者・製造業者団体のホームページ」10.0%、「その他」8.8%、「消費者団体のホームページ」5.6%、「生産者・生産者団体のホームページ」5.5%、「販売事業者・販売事業者団体のホームページ」3.4%の順である。

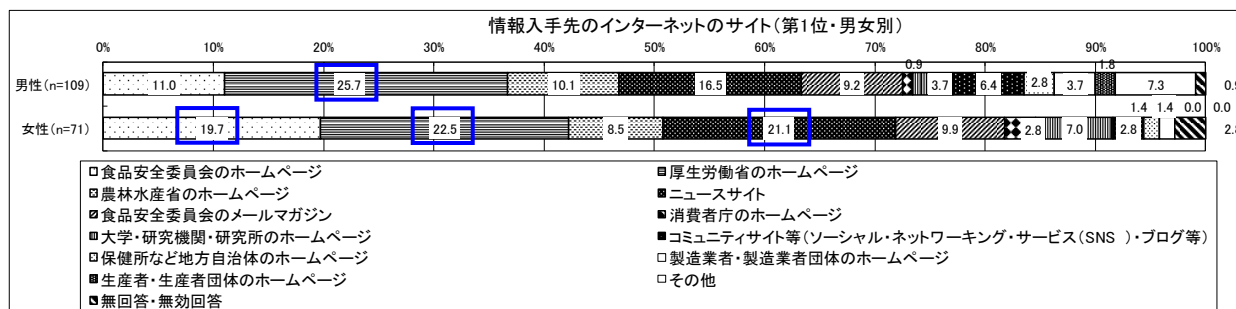
情報入手先のインターネットのサイト (n=180)



<情報入手先のインターネットのサイトについての男女別回答割合>

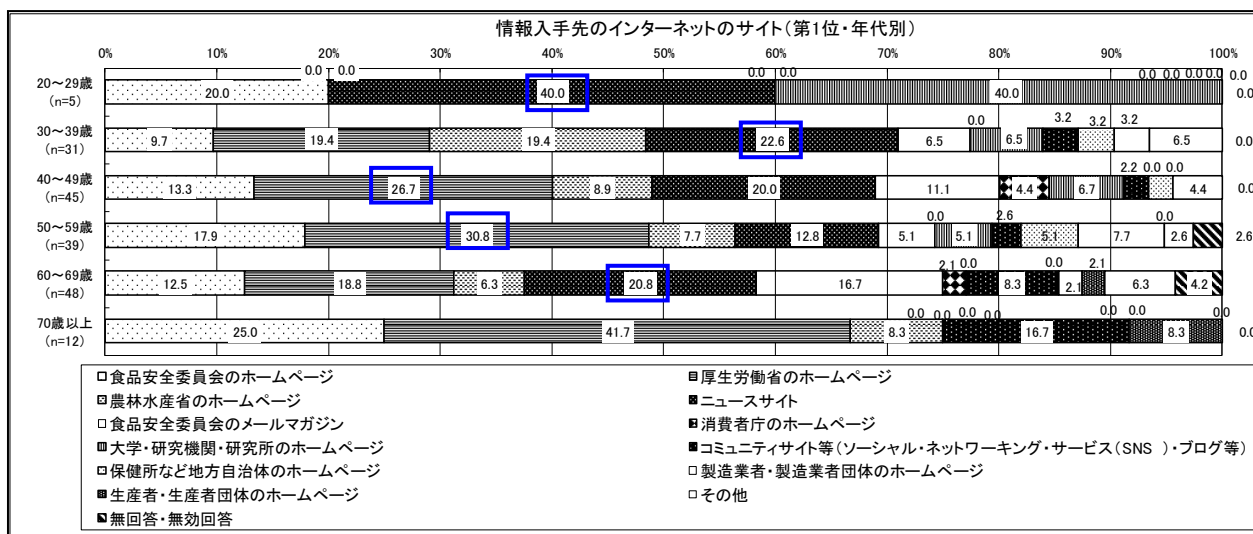
- ◆ 男性・女性ともに「厚生労働省のホームページ」が25.7%、22.5%と最も高い。
- ◆ 女性ではこれに次いで、「食品安全委員会のホームページ」18.7%、「ニュースサイト」21.1%となっており、男性に比べそれぞれ4.6%、8.7%高い。

(以下の3つのグラフでは、第1位との回答がなかった「消費者団体のホームページ」、「販売事業者・販売事業者団体のホームページ」の選択肢は削除した)



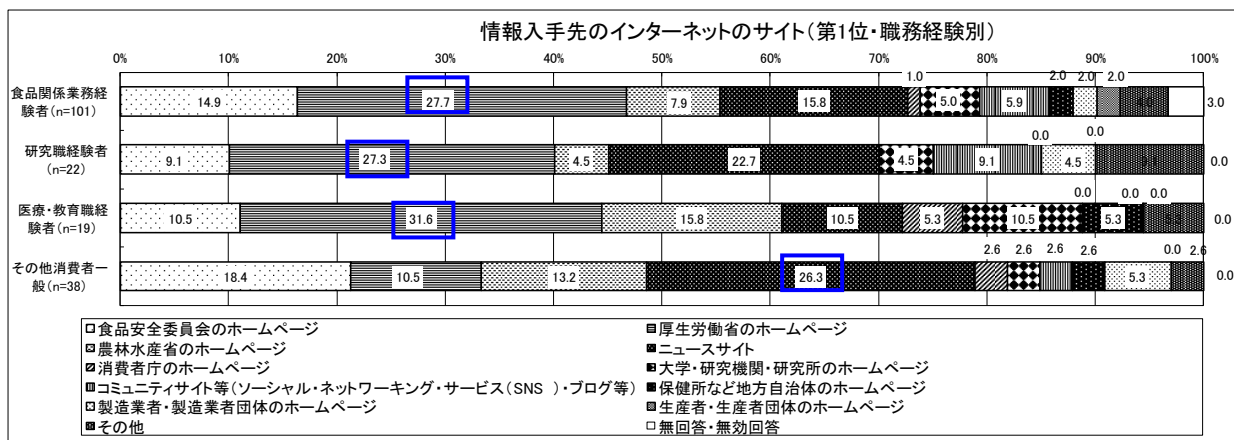
<情報入手先のインターネットのサイトについての年代別回答割合>

- ◆ 20~39歳及び60~69歳では「ニュースサイト」、40~59歳及び70歳以上では「厚生労働省のホームページ」が最も高い。



<情報入手先のインターネットのサイトについての職務経験別回答割合>

- ◆ その他一般消費者以外のすべての職務経験区分では「厚生労働省のホームページ」、その他一般消費者では「ニュースサイト」が最も高い。



問5：14 その他（情報入手先のその他のインターネットサイト）

(1) 1位（回答者数8名）

FOOCOM.NET、食品安全情報ブログ、厚生労働省のメールマガジン等の回答があった。

(2) 2位（回答者数4名）

PubMed、農林水産省のメールマガジン、食品安全情報ブログ等の回答があった。

(3) 3位（回答者数4名）

Food Communication Compass、農水省メルマガ、東京都食薬eマガジン、独立行政法人農林水産消費安全技術センターからのメールマガジン等の回答があった。

⑥食品安全委員会ホームページで提供されている情報の利用頻度（問6）

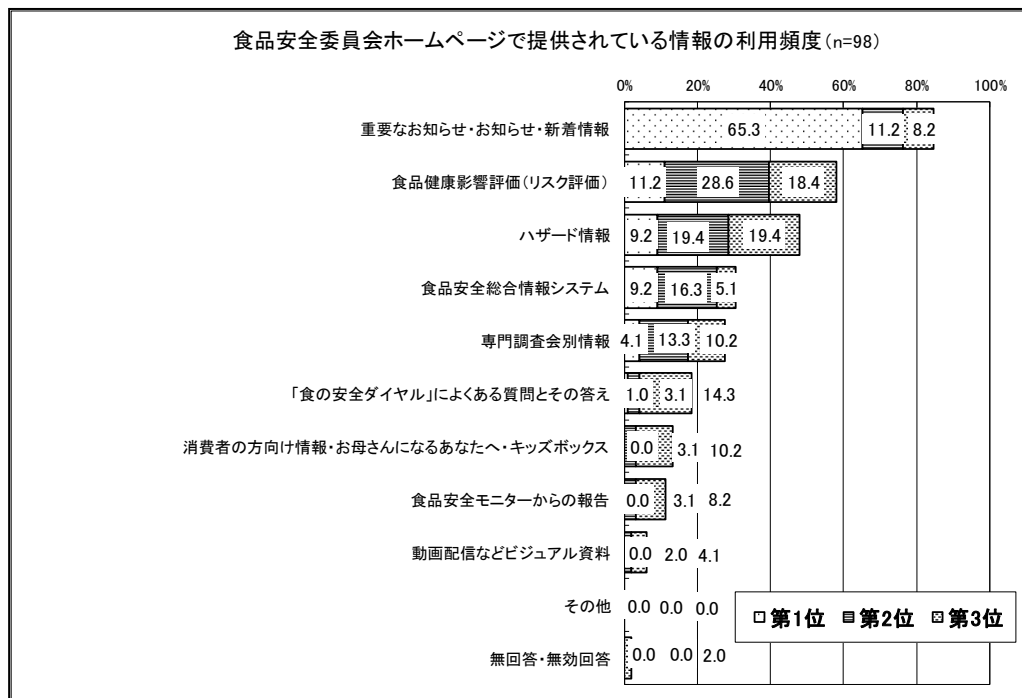
問6 問5で「3 食品安全委員会のホームページ」と回答した方にお聞きします。

食品安全委員会ホームページのどの情報を得ていますか。選択肢1～10の中から利用頻度の高い順に3つ選んでください。

【選択肢】

- 1 重要なお知らせ・お知らせ・新着情報
- 2 食品安全総合情報システム
- 3 専門調査会別情報
- 4 食品健康影響評価（リスク評価）
- 5 ハザード情報
- 6 消費者の方向け情報・お母さんになるあなたへ・キッズボックス
- 7 動画配信などビジュアル資料
- 8 「食の安全ダイヤル」によくある質問とその答え
- 9 食品安全モニターからの報告
- 10 その他（具体的に ）

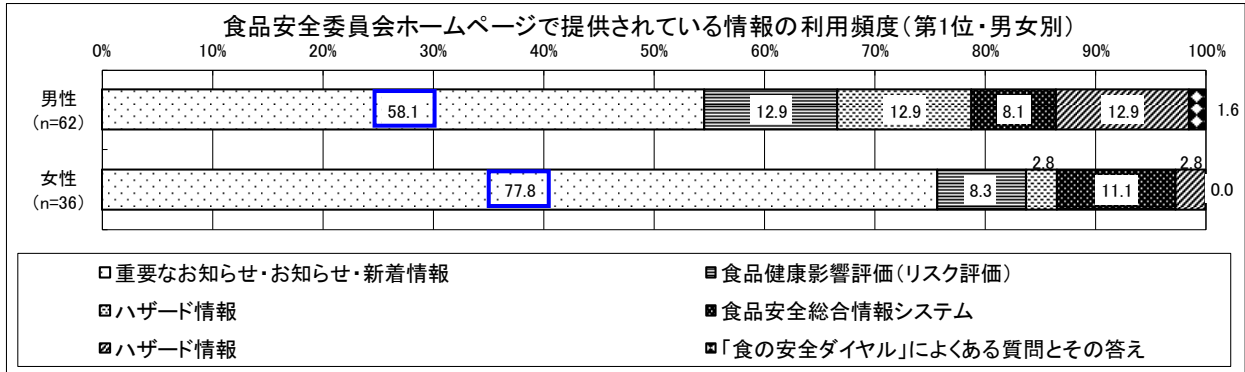
◆ それぞれの項目について第1位との回答、第2位との回答及び第3位との回答を合計したところ、「重要なお知らせ・お知らせ・新着情報」で84.7%と最も高く、次いで「食品健康影響評価（リスク評価）」58.2%、「ハザード情報」48.0%、「食品安全総合情報システム」30.6%、「専門調査会別情報」27.6%、「食の安全ダイヤル」によくある質問とその答え」18.4%、「消費者の方向け情報・お母さんになるあなたへ・キッズボックス」13.3%、「食品安全モニターからの報告」11.3%、「動画配信などビジュアル資料」6.1%の順である。



<食品安全委員会ホームページで提供されている情報の利用頻度についての男女別回答割合>

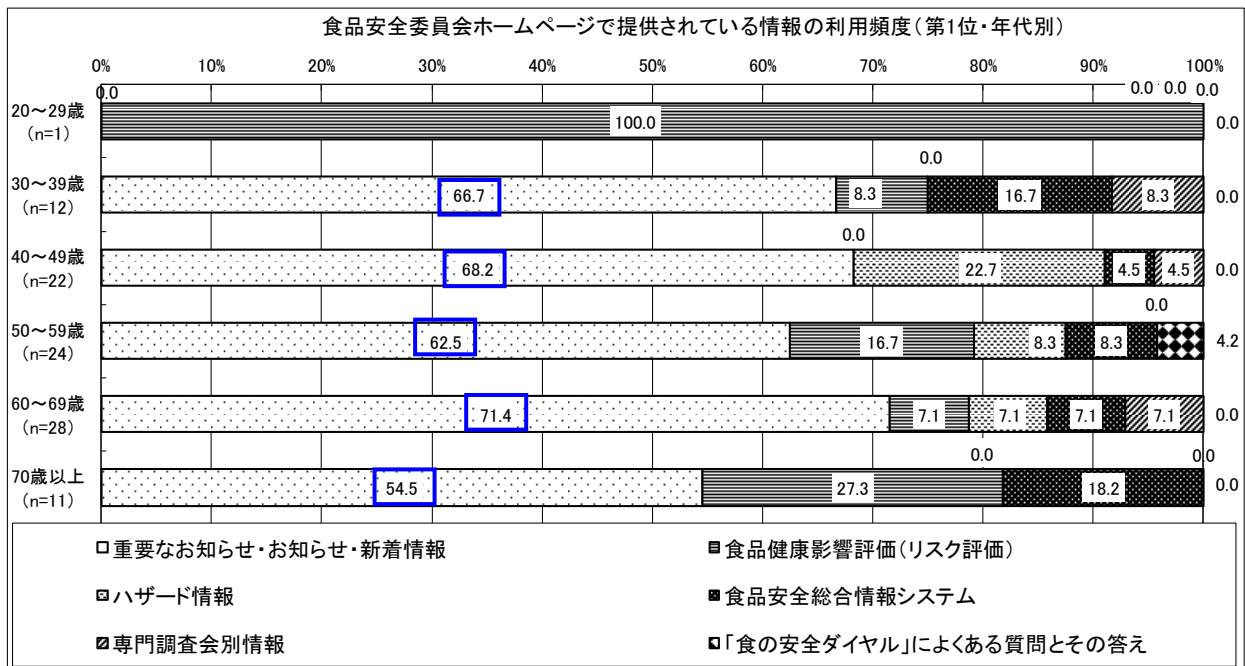
- ◆ 第1位との回答の割合は、男性・女性ともに「重要なお知らせ・お知らせ・新着情報」が58.1%、77.8%と最も高い。

(以下の3つのグラフでは、第1位との回答がなかった「消費者の方向け情報・お母さんになるあなたへ・キッズボックス」、「食品安全モニターからの報告」、「動画配信などビジュアル資料」、「その他」の選択肢は削除した)



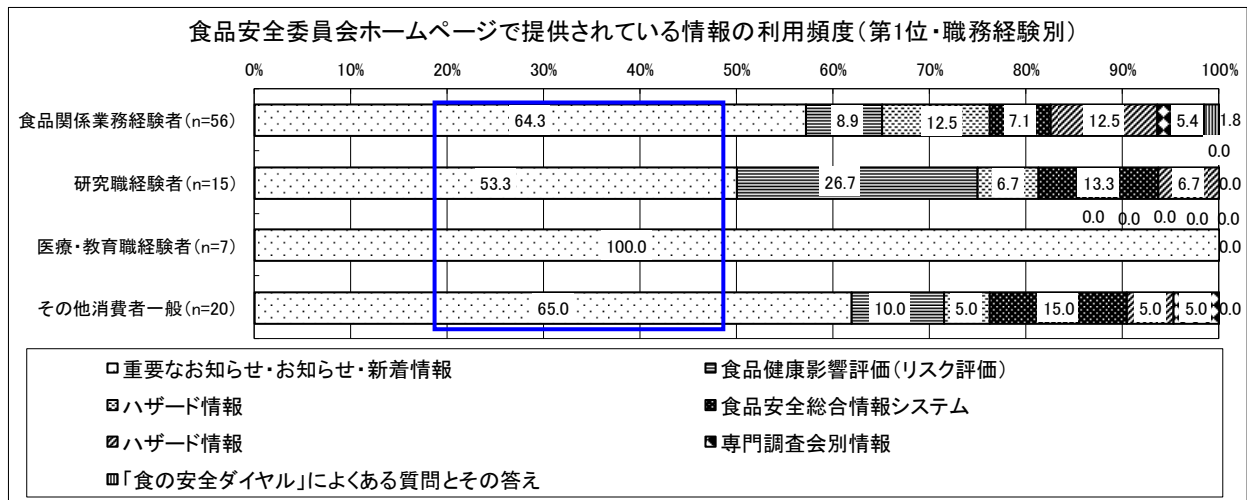
<食品安全委員会ホームページで提供されている情報の利用頻度についての年代別回答割合>

- ◆ 第1位との回答の割合は、20～29歳以外のすべての年代で「重要なお知らせ・お知らせ・新着情報」が最も高く、その中でも60～69歳で71.4%と最も高い。



<食品安全委員会ホームページで提供されている情報の利用頻度についての職務経験別回答割合>

◆ すべての職務経験区分で「重要なお知らせ・お知らせ・新着情報」が最も高い。

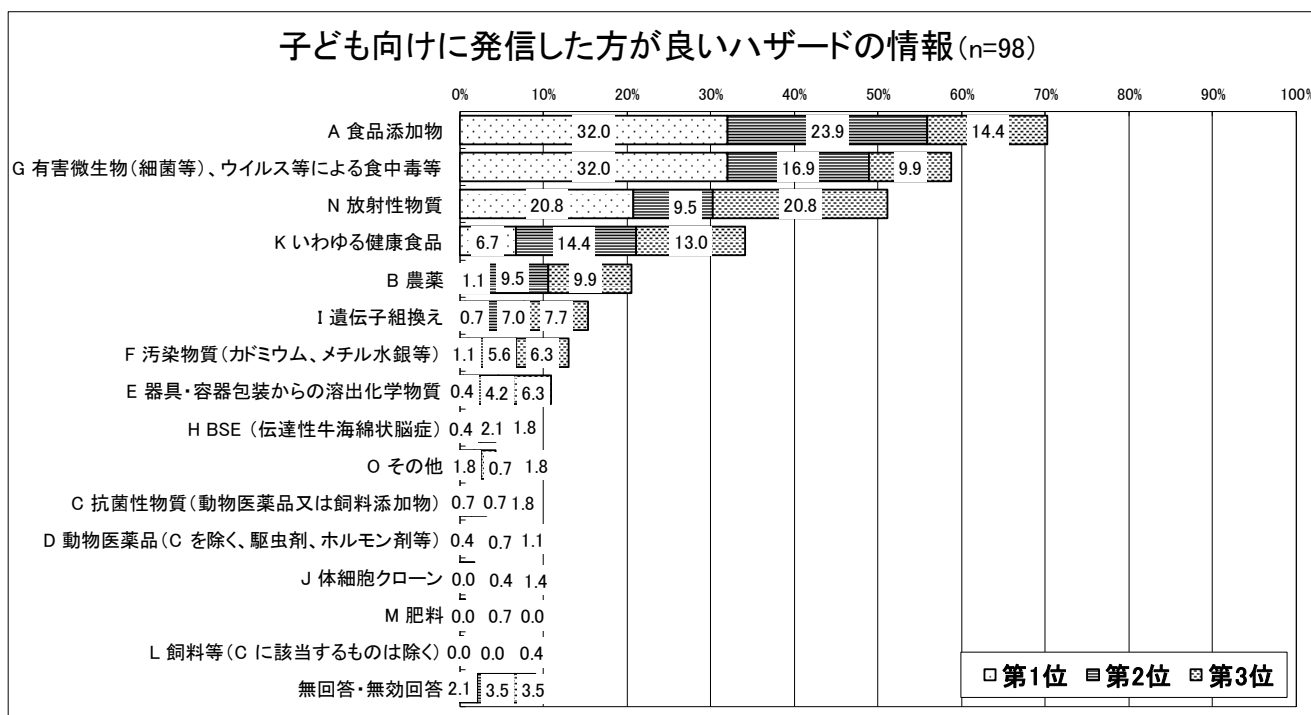


⑦子ども向け（主に小中学生を対象とする）に発信した方が良いハザードの情報（問7）

問7 問1でA～Nに掲げるハザードについて、子ども向け（主に小中学生を対象とする）に、食品安全委員会から発信した方が良いと思われる事項はありますか。

A～Nのハザードの中から発信した方が良いと思う順（優先順位が高い順）に3つ選んでください。また、A～Nのハザード以外で、該当するものがあれば、「Oその他」に具体的な例を記入し、それについても、同様に回答してください。

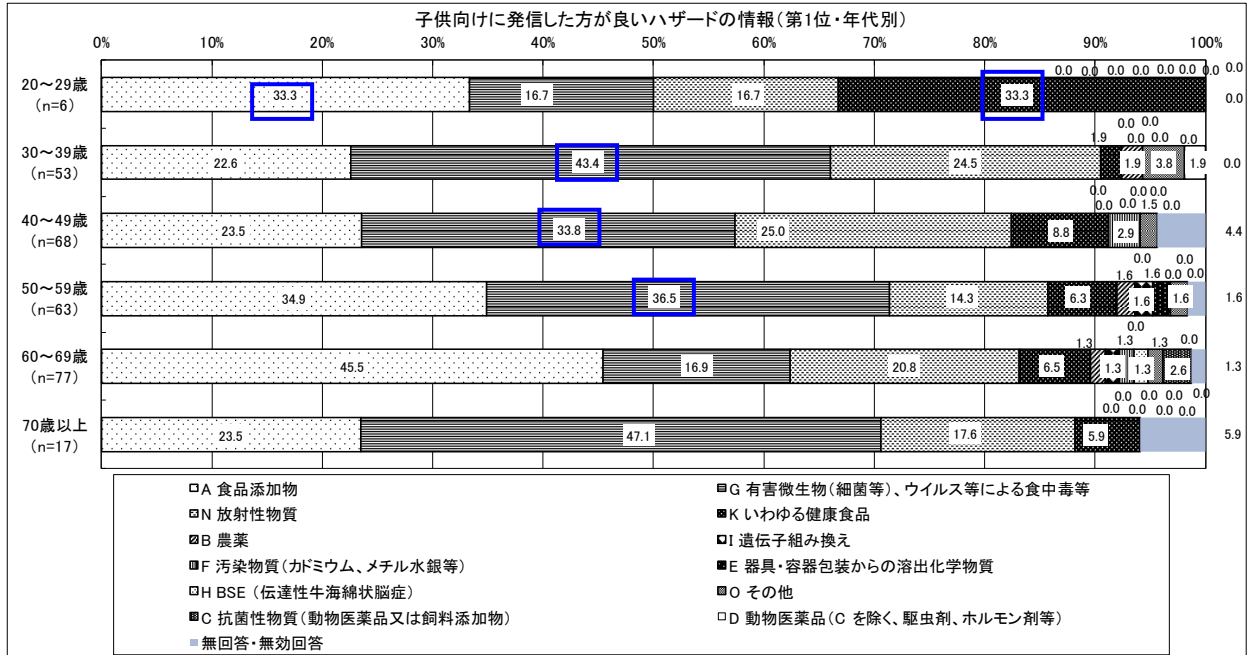
- ◆ それぞれの項目について、第1位との回答、第2位との回答及び第3位との回答を合計したところ、「食品添加物」が70.3%と最も高く、次いで「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」58.8%、「放射性物質」51.1%、「いわゆる健康食品」34.1%、「農薬」20.5%、「遺伝子組換え」15.4%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」13.0%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」10.9%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」4.3%の順である。



<子ども向けに発信した方が良いハザードについての年代別回答割合>

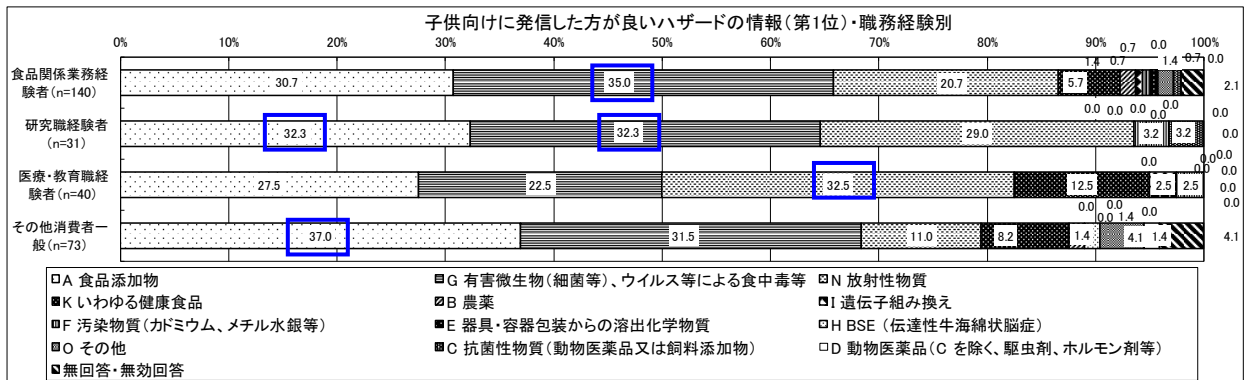
- ◆ 第1位との回答の割合は、20～29歳では「食品添加物」、「いわゆる健康食品」、30～59歳及び70歳以上では「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」、60～69歳では「食品添加物」である。

(以下の2つのグラフでは、第1位との回答がなかった「体細胞クローン」、「肥料」、「飼料(C. 抗生物質に該当するものは除く)」の選択肢は削除した)



<子ども向けに発信した方が良いハザードについての職務経験別回答割合>

- ◆ 最も回答の割合が高いハザードは、食品関係業務経験者は「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」、研究職経験者は「食品添加物」、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」、医療・教育職経験者は「放射性物質」、その他一般消費者は「食品添加物」である。



問7：0 その他(子ども向けに発信した方が良いその他のハザード)

(1) 1位(回答者数5名)

アレルギー、アレルゲン、食糧自給率等の回答があった。

(2) 2位 (回答者数 2名)

アレルギー物質、こんにゃくゼリー等の誤飲の回答があった。

(3) 3位 (回答者数 5名)

アレルギー物質、黄砂、PM2.5等の回答があった。

2) 食品安全委員会発行のメールマガジンについて

① 食品安全委員会が発行しているメールマガジン及びメールマガジン読み物版の配信登録の有無
(問 8)

問 8 あなたは食品安全委員会が発行しているメールマガジン及びメールマガジン読み物版の配信を受けていますか。選択肢 1 又は 2 のどちらか 1 つ選んでください。

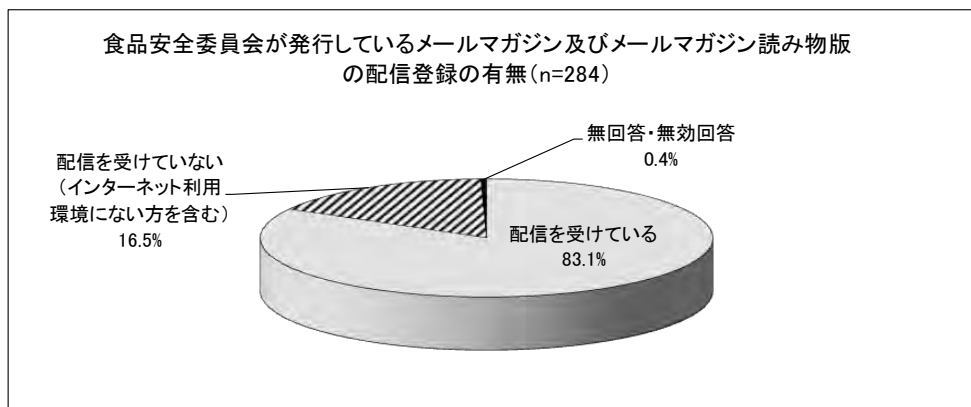
【選択肢】

- 1 配信を受けている
- 2 配信を受けていない (インターネット利用環境にない方を含む)

◆ 食品安全委員会が発行しているメールマガジンについて、「配信を受けている」との回答の割合は 83.1%となっている。

(参考) メールマガジンの種類

	主な内容	配信日
メールマガジン (ウィークリー版)	・委員会の開催結果や開催案内 ・リスクコミュニケーション(意見交換会などの開催案内)	毎週火曜日(原則として)
メールマガジン 読み物版	・実生活に役立つ情報 ・Q&A	・安全性の解説 ・委員の随想 月の中旬と下旬



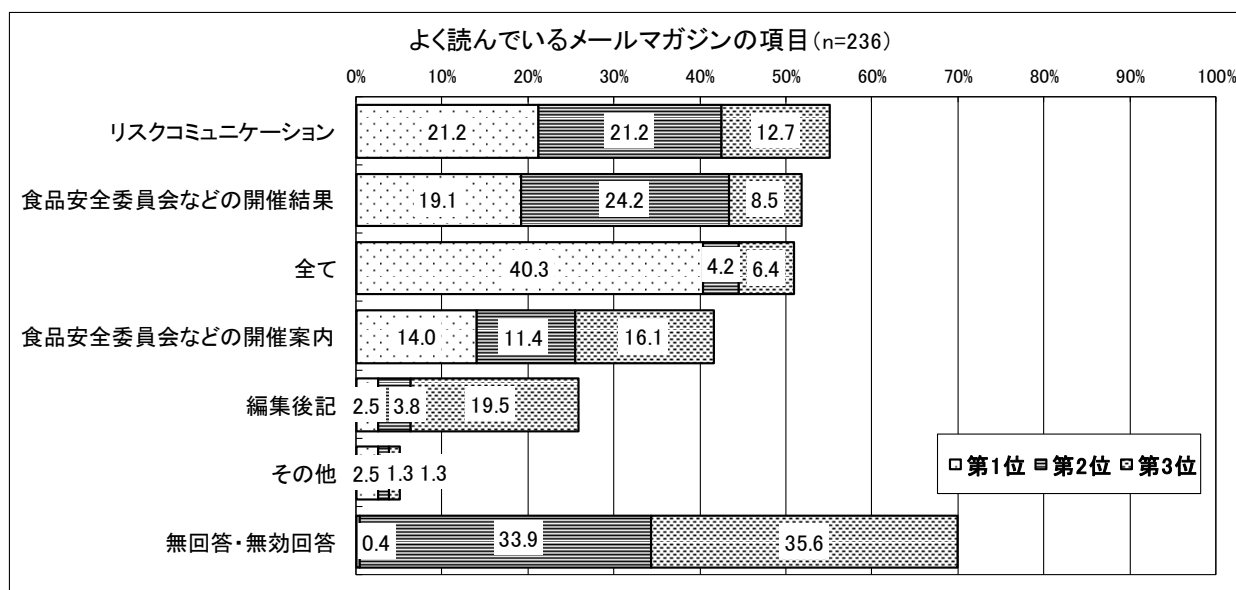
②よく読んでいるメールマガジンの項目（問9）

問9 メールマガジン（原則、毎週火曜日配信）についてお聞きします。
 あなたがよく読んでいるメールマガジンの項目は、どれですか。選択肢1～6の中から読む頻度の高い順に3つ選んでください。
 毎回全ての項目をよく読んでいる場合は選択肢「1」のみを選んでください。

【選択肢】

- 1 全て
- 2 食品安全委員会などの開催結果
- 3 食品安全委員会などの開催案内
- 4 リスクコミュニケーション
- 5 編集後記
- 6 その他（具体的に ）

◆ それぞれの項目について、第1位との回答、第2位との回答及び第3位との回答を合計したところ、「リスクコミュニケーション」で55.1%と最も高く、次いで「食品安全委員会などの開催結果」51.8%、「全て」50.9%、「食品安全委員会などの開催案内」41.5%、「編集後記」25.8%、「その他」5.1%の順である。

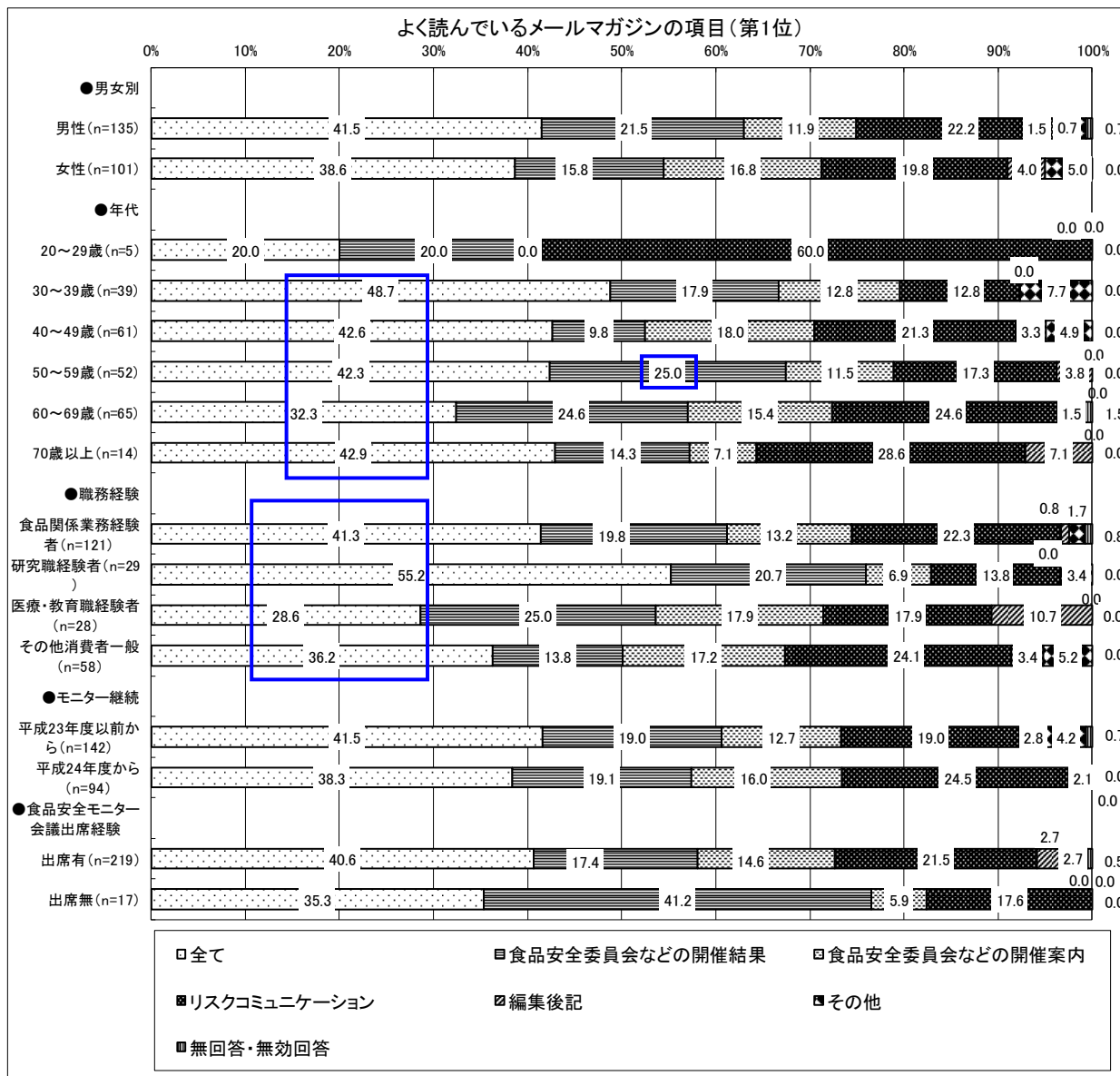


＜よく読んでいるメールマガジンの項目についての年代別回答割合＞

- ◆ 第1位との回答の割合は、20～29歳以外のすべての年代で「全て」が高い。「食品安全委員会などの開催結果」との回答割合は50～59歳では25.0%で、他の年代に比べ最も高い。

＜よく読んでいるメールマガジンの項目についての職務経験別回答割合＞

- ◆ 第1位との回答の割合は、すべての職務経験区分で「全て」が最も高い。
(第1位で「全て」と回答した者について第2位・第3位の回答が空欄となること等から、第2位以下の「無回答・無効回答」の割合が高くなっている。)



問9：6 その他（よく読んでいるメールマガジンのその他の項目）

(1) 1位（回答者数6名）

特定項目をよく読んでいると言うより全体に斜め読みをした上で関心がある話題等をじっくり読む、重要なお知らせ、その時興味があるもの等の回答があった。

(2) 2位 (回答者数 3名)

食品安全情報、地域で開催されるリスクコミュニケーションの案内等の回答があった。

(3) 3位 (回答者数 3名 うち1名が空欄)

お知らせ、特に決まっていないとの回答があった。

③メールマガジンの掲載内容の分かりやすさ (問 10)

問 10 メールマガジンの掲載内容についてお聞きします。

メールマガジンを読んでみてどう感じましたか。選択肢 1～4の中から1つ選んでください。

【選択肢】

- 1 分かりやすい
- 2 どちらかというと分かりやすい
- 3 どちらかというと分かりにくい
- 4 分かりにくい

- ◆ 「どちらかというと分かりやすい」との回答割合は 52.1%と最も高く、「どちらかというと分かりにくい」 27.1%、「分かりやすい」 16.9%、「分かりにくい」 3.8%の順である。また、「分かりやすい」「どちらかというと分かりやすい」との回答割合の合計は 69.0%、「どちらかというと分かりにくい」「分かりにくい」との回答割合の合計は 30.9%である。

<メールマガジンの掲載内容の分かりやすさについての男女別回答割合>

- ◆ 男性で「どちらかというと分かりやすい」との回答割合が、女性に比べ 9.8%高い。

<メールマガジンの掲載内容の分かりやすさについての職務経験別回答割合>

- ◆ 研究職経験者が 27.6%と、他の職務経験区分に比べ最も高い。

④メールマガジン読み物版の掲載内容の分かりやすさ（問 11）

問 11 メールマガジン読み物版の掲載内容についてお聞きします。

メールマガジン読み物版を読んでみてどう感じましたか。選択肢 1～4 の中から 1つ選んでください。

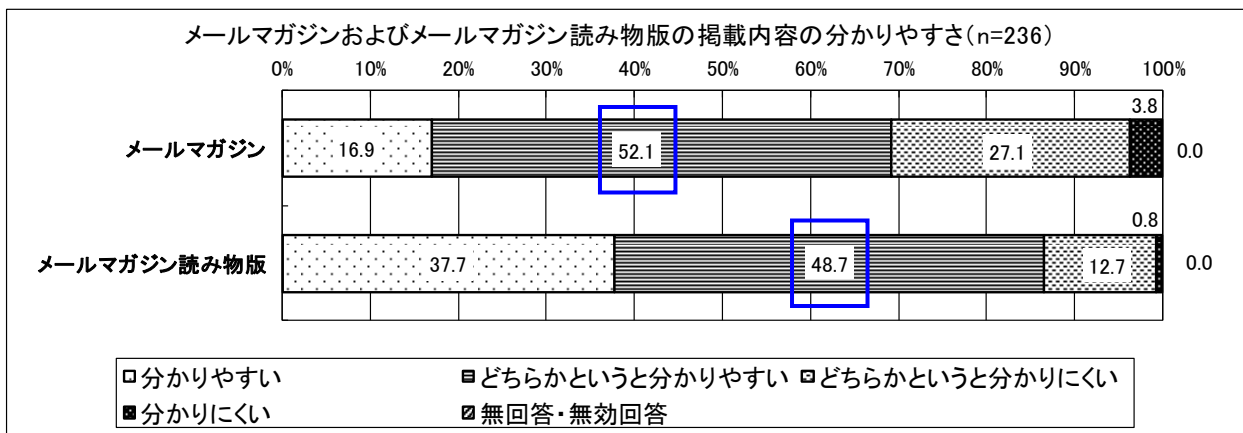
【選択肢】

- 1 分かりやすい
- 2 どちらかというと分かりやすい
- 3 どちらかというと分かりにくい
- 4 分かりにくい

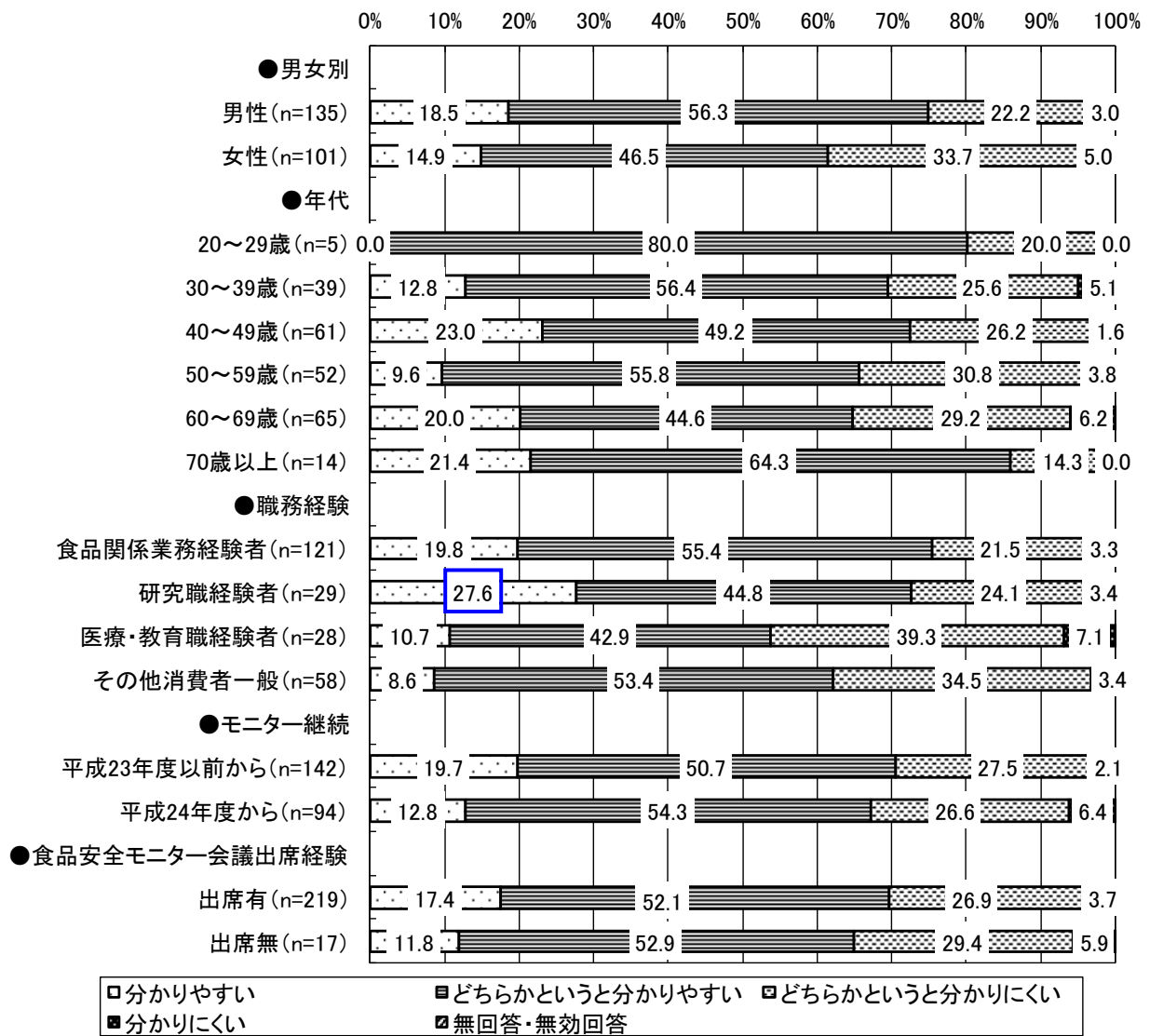
- ◆ 「どちらかというと分かりやすい」との回答割合は 48.7%と最も高く、次いで「分かりやすい」37.7%、「どちらかというと分かりにくい」12.7%、「分かりにくい」0.8%の順である。また、「分かりやすい」「どちらかというと分かりやすい」との回答割合の合計は 86.4%、「どちらかというと分かりにくい」「分かりにくい」との回答割合の合計は 13.5%であった。

<メールマガジン読み物版の掲載内容の分かりやすさについての職務経験別回答割合>

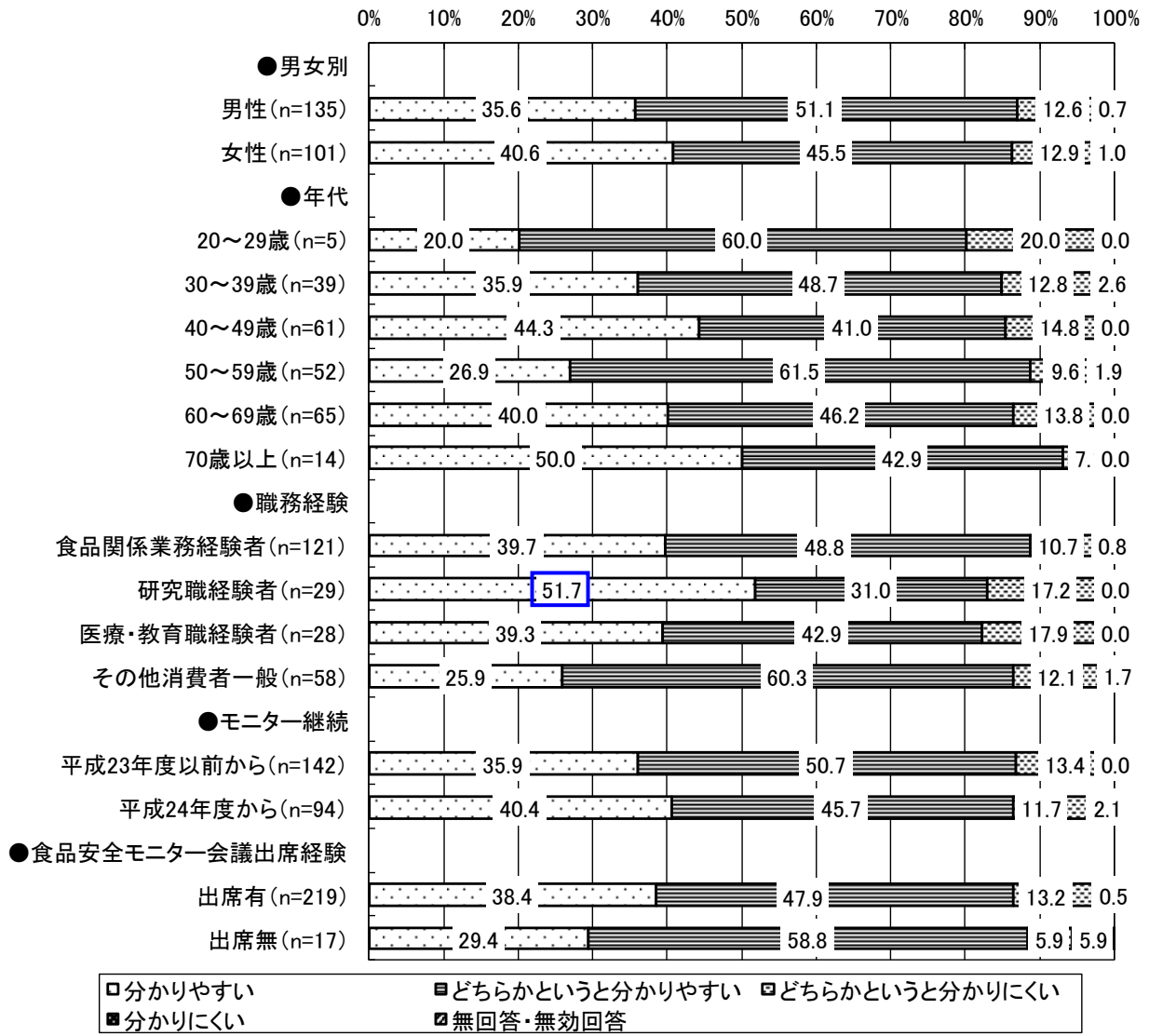
- ◆ 「分かりやすい」との回答割合は研究職経験者が 51.7%で、全ての職務経験区分の中で最も高い。



メールマガジンの掲載内容の分かりやすさ



メールマガジン読み物版の掲載内容の分かりやすさ



⑤メールマガジン読み物版の配信文字数（問12）

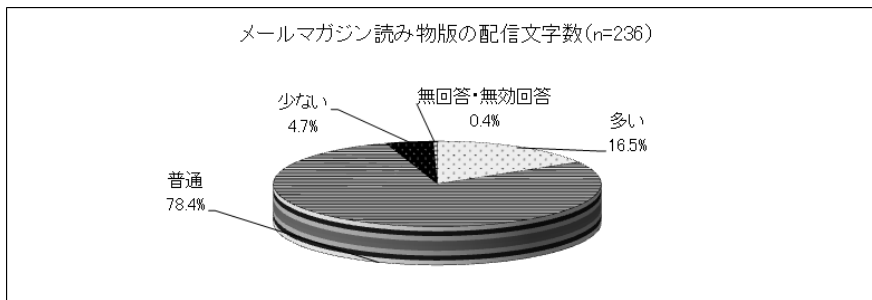
問12 メールマガジン読み物版についてお聞きします。

メールマガジン読み物版の配信文字数は、いかがですか。選択肢1～3の中から1つ選んでください。

【選択肢】

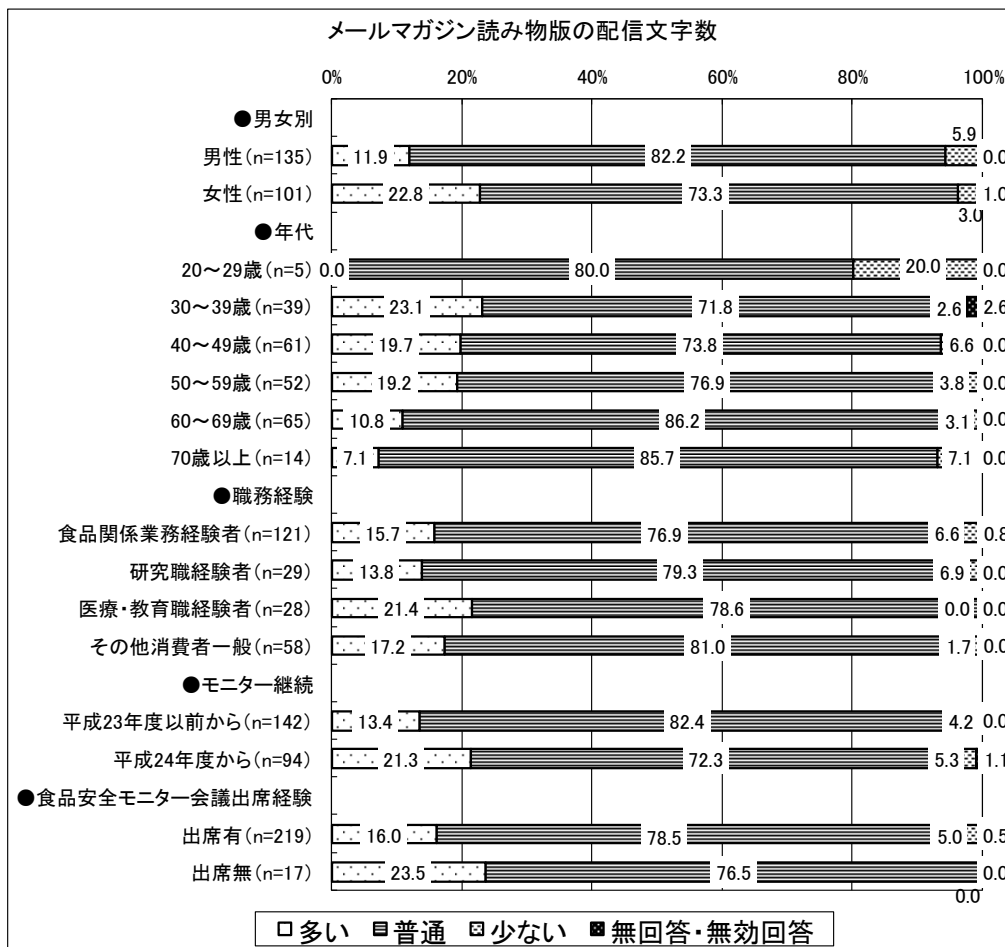
- 1 多い
- 2 ふつう
- 3 少ない

◆ 「普通」との回答割合は78.4%で最も高く、「多い」16.5%、「少ない」4.7%と続く。



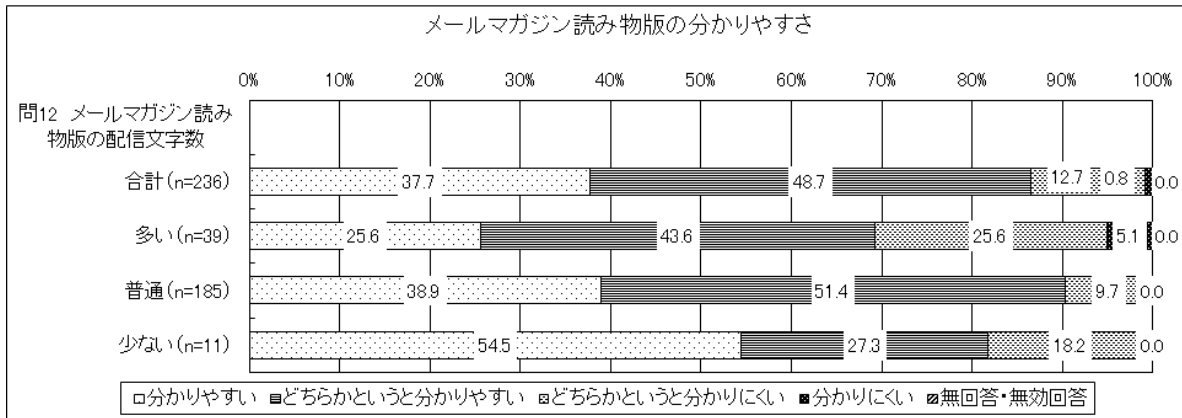
<メールマガジン読み物版の配信文字数についての属男女別回答割合>

◆ いずれの属性でも「普通」が最も高い。



<メールマガジン読み物版の配信文字数の評価別「分かりやすさ」についての回答割合>

- ◆ メールマガジン読み物版の配信文字数について「少ない」との回答のうち 54.5%が「分かりやすい」と回答している。また、配信文字数が「多い」との回答のうち、「分かりやすい」及び「どちらかというと分かりにくい」との回答割合は25.6%と同じである。

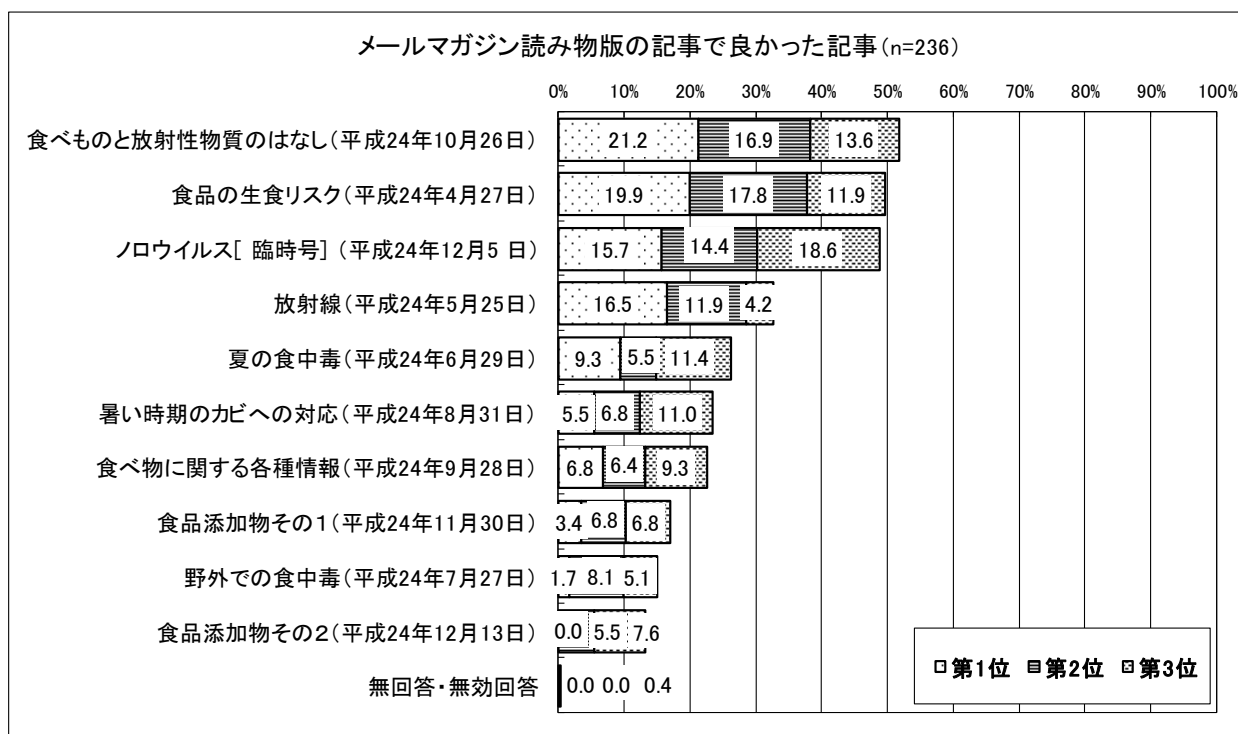


⑥メールマガジン読み物版の記事で良かった記事（問 13）

問 13 これまで配信したメールマガジン読み物版の記事（参考資料を参照ください）で、良かった記事はどれですか。下表の1～10の中から、良かった順に3つ選んでください。

	配信内容	配信日
1	食品の生食リスク	平成 24 年 4 月 27 日
2	放射線	平成 24 年 5 月 25 日
3	夏の食中毒	平成 24 年 6 月 29 日
4	野外での食中毒	平成 24 年 7 月 27 日
5	暑い時期のカビへの対応	平成 24 年 8 月 31 日
6	食べ物に関する各種情報	平成 24 年 9 月 28 日
7	食べものと放射性物質のはなし	平成 24 年 10 月 26 日
8	食品添加物その 1	平成 24 年 11 月 30 日
9	食品添加物その 2	平成 24 年 12 月 13 日
10	ノロウイルス[臨時号]	平成 24 年 12 月 5 日

- ◆ それぞれの記事について第 1 位との回答、第 2 位との回答及び第 3 位との回答を合計したところ、「食べものと放射性物質のはなし（平成 24 年 10 月）」が 51.7%と最も高く、次いで「食品の生食リスク（平成 24 年 4 月）」49.6%、「ノロウイルス[臨時号]（平成 24 年 12 月 5 日）」48.7%、「放射線（平成 24 年 5 月）」32.6%、「夏の食中毒（平成 24 年 6 月）」26.2%、「暑い時期のカビへの対応（平成 24 年 8 月）」23.3%、「食べ物に関する各種情報（平成 24 年 9 月）」22.5%、「食品添加物その 1（平成 24 年 11 月）」17.0%、「野外での食中毒（平成 24 年 7 月）」14.9%、「食品添加物その 2（平成 24 年 12 月）」13.1%の順である。



<メールマガジンの読み物版の記事で良かった記事についての男女別回答割合>

- ◆ 第1位との回答割合を男女別で比べると、男性では「食品の生食リスク」で23.7%と最も高く、女性では「食べものと放射性物質のはなし」で22.8%と最も高い。

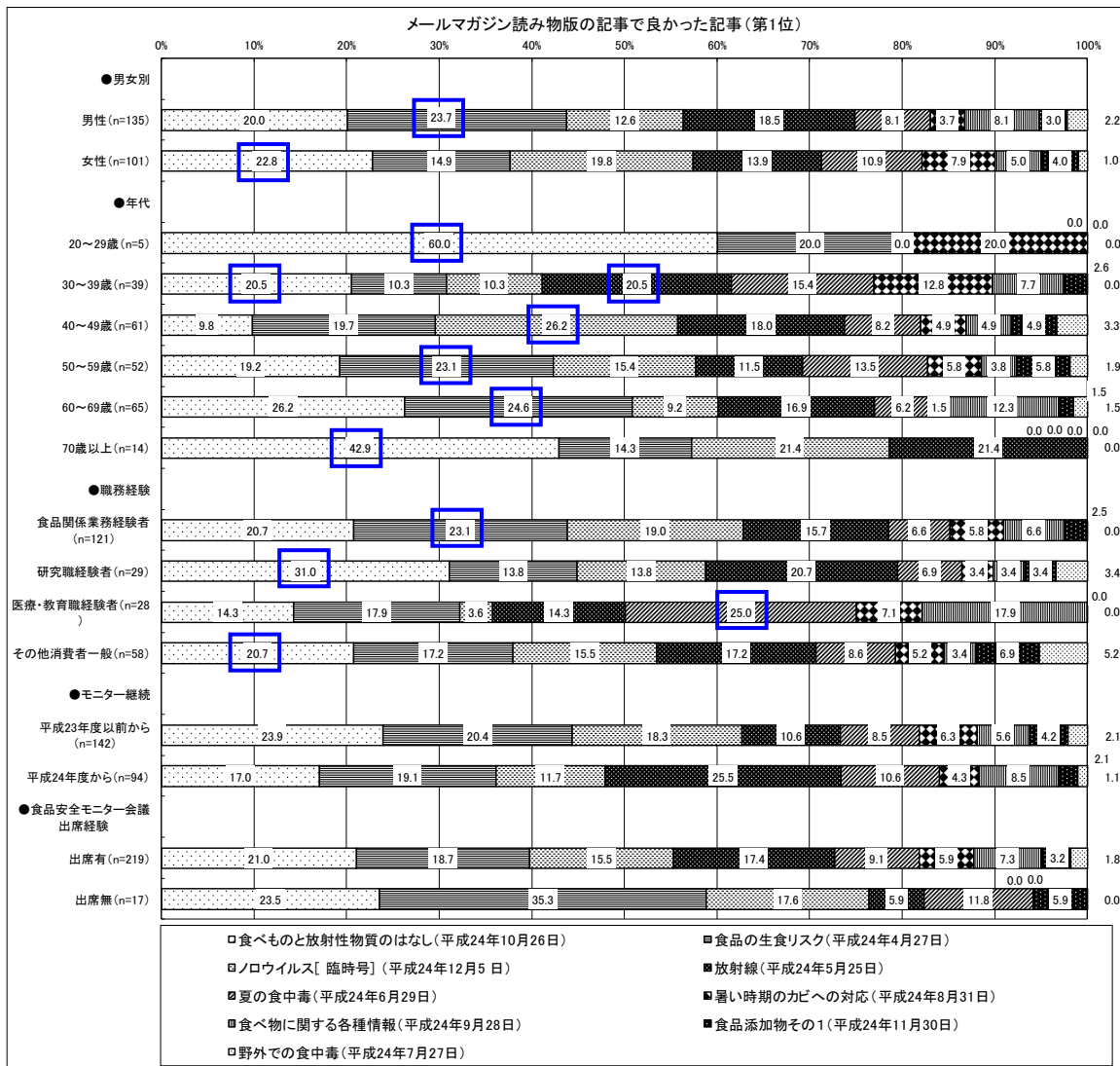
<メールマガジンの読み物版の記事で良かった記事についての年代別回答割合>

- ◆ 20～29歳、60～69歳、70歳以上では「食べものと放射性物質のはなし」、30～39歳では「放射線」、「食べものと放射性物質のはなし」、40～49歳では「ノロウイルス[臨時号]」、50～59歳では「食品の生食リスク」であった。

<メールマガジンの読み物版の記事で良かった記事についての職務経験別回答割合>

- ◆ 食品関係業務経験者では「食品の生食リスク」との回答割合は23.1%で、研究職経験者、その他消費者一般では「食べものと放射性物質のはなし」がそれぞれ31.0%、20.7%、医療・教育職経験者では「夏の食中毒」で25.0%であった。

(以下のグラフでは、第1位との回答がなかった「食品添加物その2 (平成24年12月13日)」の選択肢は削除した。



⑦メールマガジン読み物版の記事の中で良かった理由（問 14）

問 14 問 13 でメールマガジン読み物版の記事の中で良かった理由はどういうところですか。選択肢 1～6 の中から 1 つ選んでください。

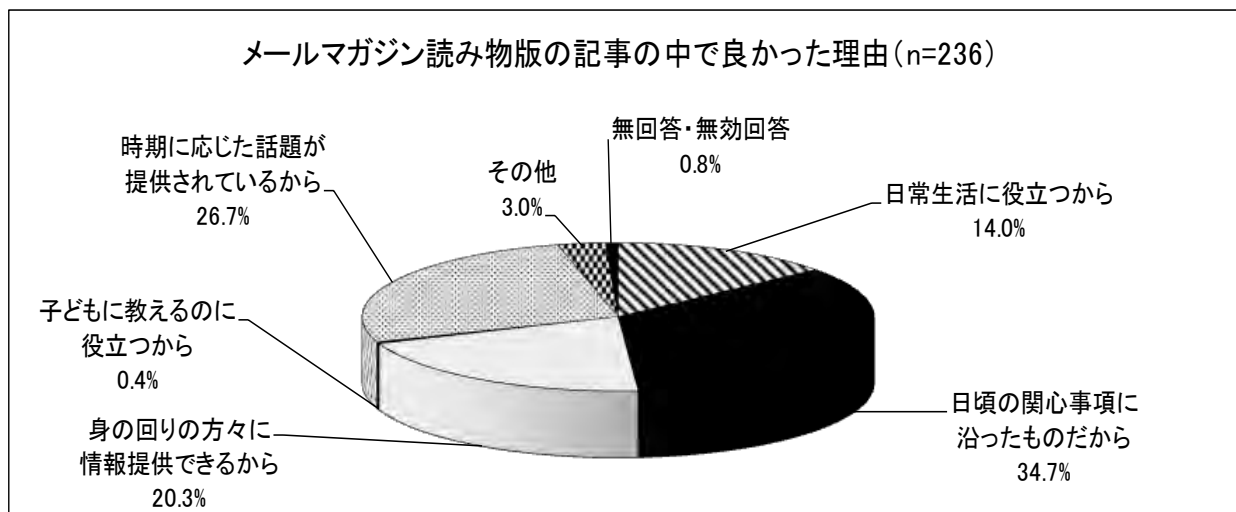
【選択肢】

- 1 日常生活に役立つから
- 2 日頃の関心事項に沿ったものだから
- 3 身の回りの方々に情報提供できるから
- 4 子どもに教えるのに役立つから
- 5 時期に応じた話題が提供されているから
- 6 その他（具体的に ）

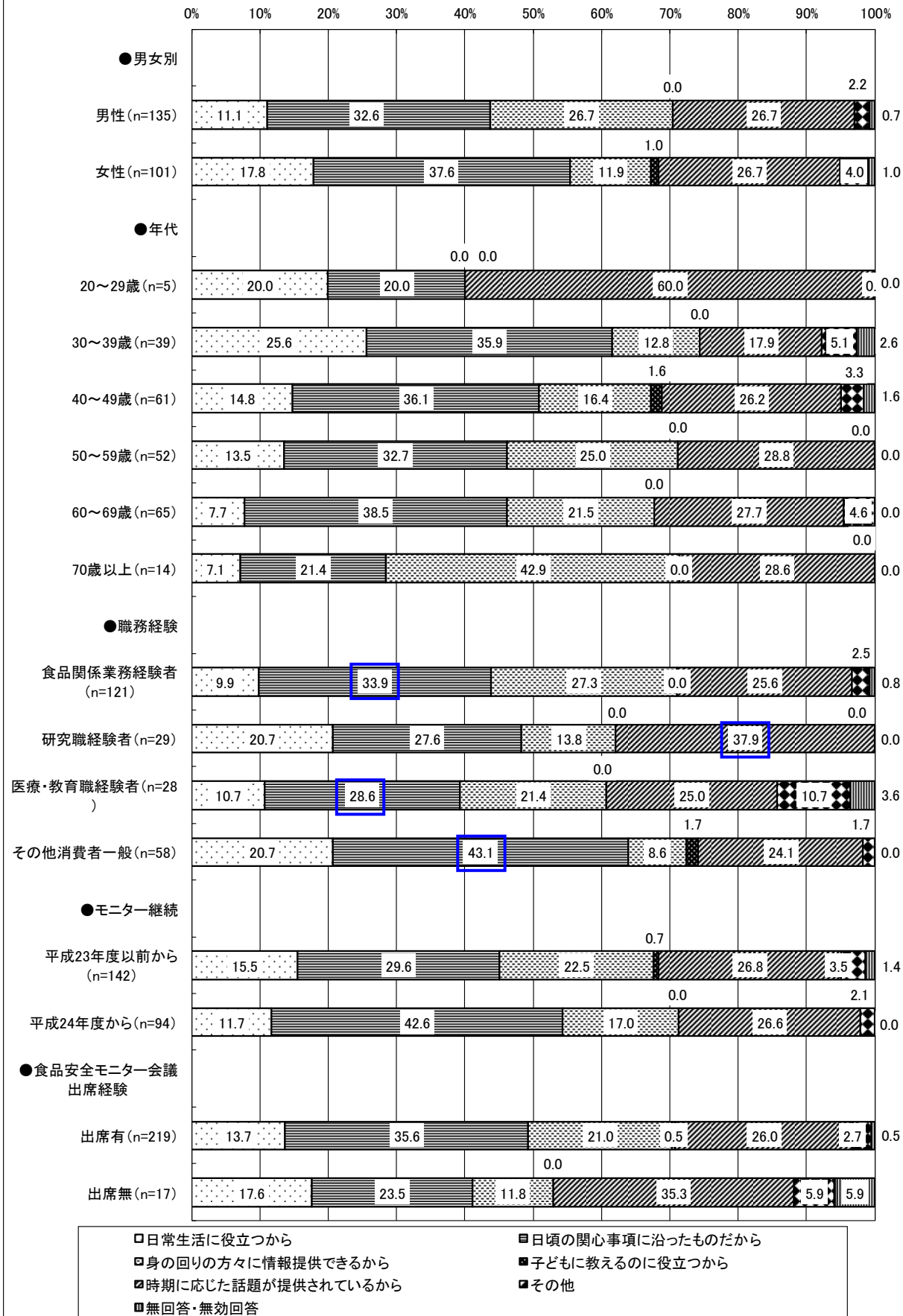
- ◆ 「日頃の関心事項に沿ったものだから」との回答割合は 34.7%と最も高く、次いで「時期に応じた話題が提供されているから」26.7%、「身の回りの方々に情報提供できるから」20.3%、「日常生活に役立つから」14.0%、「その他」3.0%、「子どもに教えるのに役立つから」0.4%の順である。

<メールマガジンの読み物版の記事で良かった理由についての職務経験別回答割合>

- ◆ 研究職経験者以外の職務では「日頃の関心事項に沿ったものだから」が最も多く、研究職経験者では「時期に応じた話題が提供されているから」が最も多い。



メールマガジン読み物版の記事の中で良かった理由



問 14：6 その他（メールマガジン読み物版の記事の中で良かったその他の理由

：回答者数7名）

メールマガジン読み物版の記事の中で良かった理由について、解説が分かり易くて読み易かった、普段なかなか知ることができないが身近にある大切な情報が入っているから、読んで楽しいから等の回答があった。

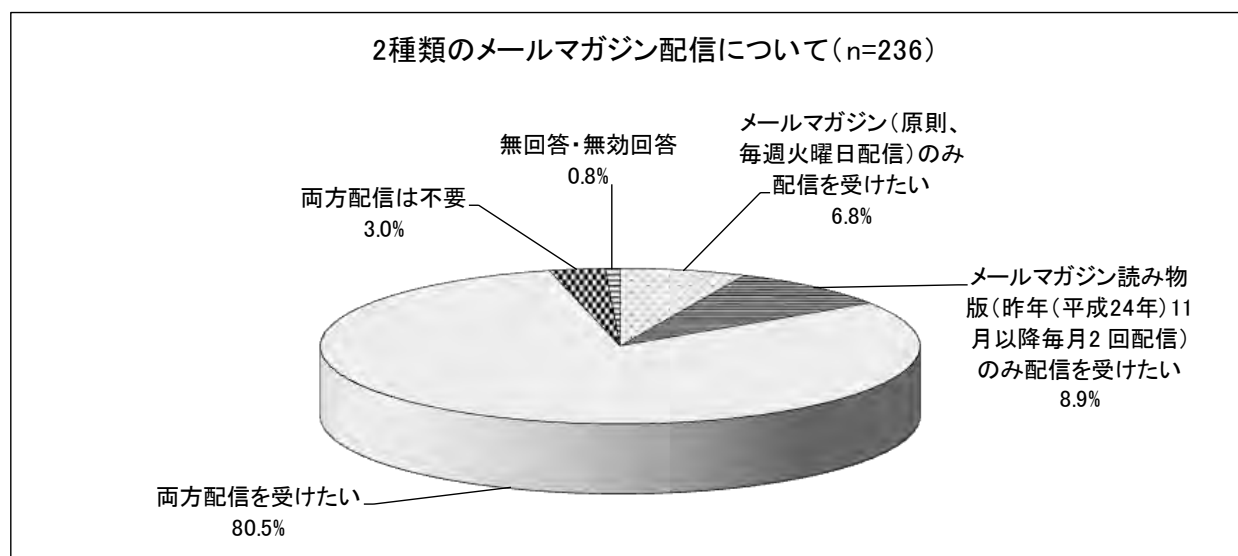
⑧2 種類のメールマガジン配信について（問 15）

問 15 メールマガジン（原則、毎週火曜日配信）の配信登録をされた方に、自動的にメールマガジン読み物版（昨年（平成24年）11月配信開始。月2回配信）も配信しています。2種類のメールマガジンが配信されることは、いかがですか。選択肢1～4の中から1つ選んでください。

【選択肢】

- 1 メールマガジン（原則、毎週火曜日配信）のみ配信を受けたい
- 2 メールマガジン読み物版（昨年（平成24年）11月以降毎月2回配信）のみ配信を受けたい
- 3 両方配信を受けたい
- 4 両方配信は不要

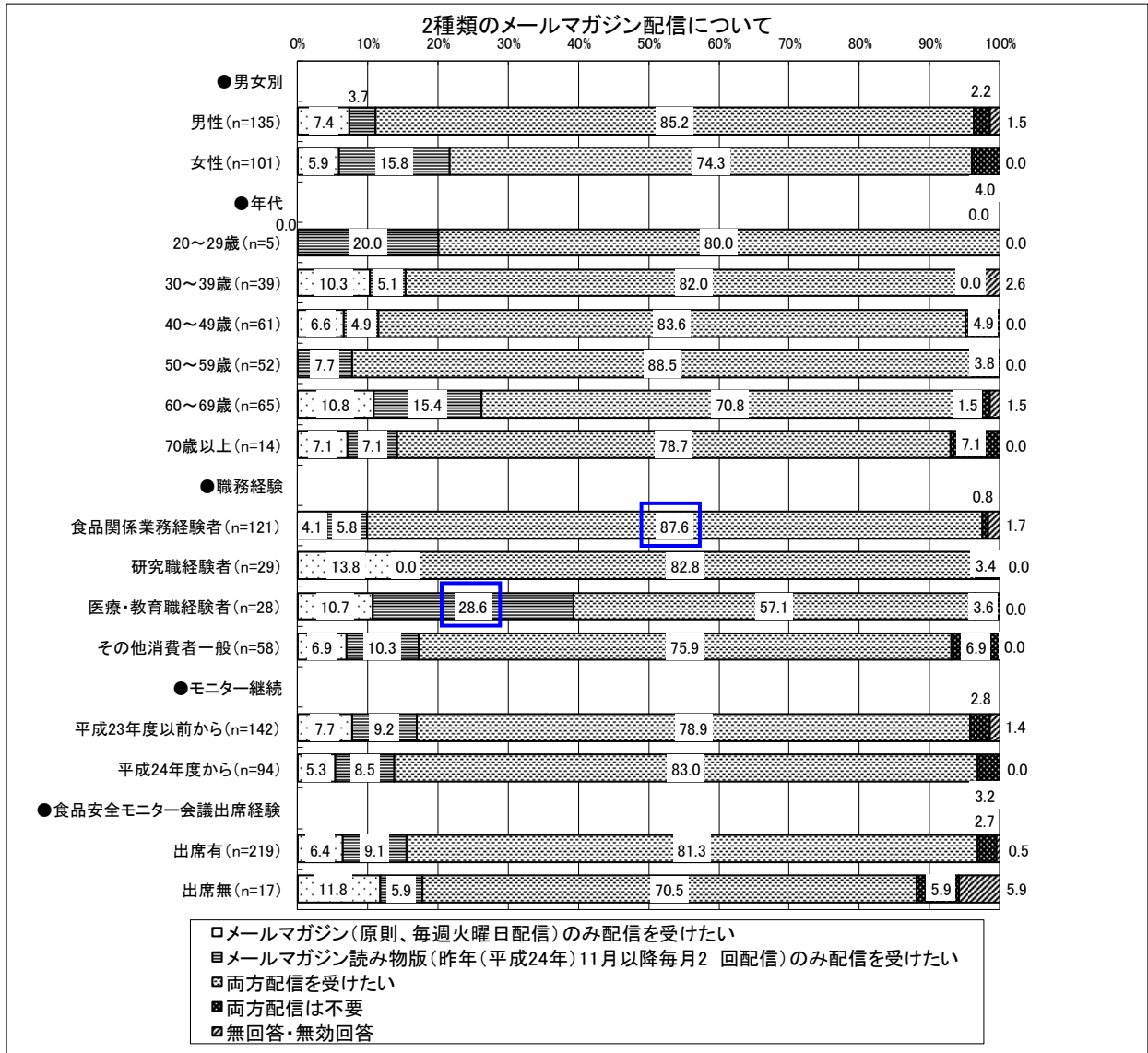
- ◆ 「両方配信を受けたい」との回答の割合は80.5%と最も高く、次いで「メールマガジン読み物版（昨年（平成24年）11月以降毎月2回配信）のみ配信を受けたい」8.9%、「メールマガジン（原則、毎週火曜日配信）のみ配信を受けたい」6.8%、「両方配信は不要」3.0%の順である。



<メールマガジン配信についての職務経験別回答割合>

- ◆ 全ての職務経験区分において「両方配信を受けたい」との回答の割合が高く、特に食品関係業務経験者では87.6%と高いが、「メールマガジン読み物版（昨年（平成24年）11月以降毎月2

「(メールマガジンのみ配信を受けたい)」との回答の割合については医療・教育職経験者で28.6%と高い。



分類整理表

1) 食品の安全性に関する情報について

①ハザードに関する情報を必要とする理由 (問2)

問2 問1で選択肢の「1 必要がある」と回答したハザードがある方にお聞きます。
 「1 必要がある」と回答したハザードについて、その理由を選択肢1～4の中から 1 つずつ選んでください。

ハザード	職務経験	男女別	年代	情報が必要な理由
食品添加物	食品関係業務経験者	男性	50～59 歳	その働きについて理解しておくべきだから 食品の分析が本業
			70 歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
農薬	食品関係業務経験者	男性	70 歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
	その他消費者一般	女性	50～59 歳	農薬の使用量の基準などを守っているかなどが心配
抗菌性物質(動物用医薬品又は飼料添加物)	食品関係業務経験者	男性	70 歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
	医療・教育職経験者	女性	40～49 歳	必要な時に情報がほしい
	その他消費者一般	女性	40～49 歳 50～59 歳	知識として知っておく必要があると思ったから。 中国では、鶏に成長ホルモン剤を使っている業者が多いので、日本に入っていないか心配
動物用医薬品(Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等)	食品関係業務経験者	男性	70 歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
		女性	30～39 歳	現段階で仕事上も日常生活においても知らなくても困らないが、知りたいときのために情報が必要
	医療・教育職経験者	女性	40～49 歳	必要な時に情報がほしい
	その他消費者一般	女性	40～49 歳	知識として知っておく必要があると思ったから
器具・容器包装からの溶出化学物質	食品関係業務経験者	男性	70 歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
	その他消費者一般	女性	50～59 歳	ビスフェノールAについて知りたい
汚染物質(カドミウム、メチル水銀等)	食品関係業務経験者	男性	70 歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等(回答者数=3人)	食品関係業務経験者	男性	60～69 歳	毒素酸性変異株の出現などから 公民館活動(料理教室、文化祭など)で知らせる機会があるので
			70 歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
BSE(伝達性牛海綿状脳症)	食品関係業務経験者	男性	50～59 歳	既に監視の必要性の低いことを理解してもらうため
			70 歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
	医療・教育職経験者	男性	60～69 歳	発生頻度の疫学的推移をもう少しみる必要がある。
遺伝子組換え	食品関係業務経験者	男性	50～59 歳	人口増の対策としての必要性、安全性の理解醸成のため
			70 歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
	医療・教育職経験者	男性	60～69 歳	TPP 交渉の推移で今後注視する必要があるかもしれない
	その他消費者一般	女性	50～59 歳	知らないうちに遺伝子組み換え食品がどんどん入ってきている

ハザード	職務経験	男女別	年代	情報が必要な理由
体細胞クローン	食品関係業務経験者	男性	70歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
	食品関係業務経験者	女性	30～39歳	現段階で仕事上も日常生活においても知らなくても困らないが、知りたいときのために情報が必要
	その他消費者一般	女性	50～59歳	倫理上の問題
いわゆる健康食品	食品関係業務経験者	男性	70歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
		女性	40～49歳	自分では利用しないが、周囲の人が間違った利用をしないように、正しい情報を伝えたいから
飼料等(Cに該当するものは除く)	食品関係業務経験者	男性	70歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
	医療・教育職経験者	女性	40～49歳	必要な時に情報がほしい
肥料)	食品関係業務経験者	男性	70歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
	医療・教育職経験者	女性	40～49歳	必要な時に情報がほしい
	その他消費者一般	女性	40～49歳	家庭菜園をしているので
放射性物質 (回答者数=4人うち1人が空欄)	食品関係業務経験者	男性	60～69歳	東日本大震災以来放射能物質を含む食品に特に注視しているため。 公民館活動(料理教室、文化祭など)で情報を知らせる機会があるので。
			70歳以上	日常生活上でも、消費生活アドバイザーとしても知っておくべきだと思う
	医療・教育職経験者	女性	40～49歳	必要な時に情報がほしい
	その他消費者一般	女性	40～49歳	

②ハザード情報の収集源（問4）

問4 問3で選択肢の「1 自ら積極的に情報収集している」と回答した方にお聞きます。

情報収集する際にどのようなところから情報を入手していますか。選択肢1～7の中から利用頻度の高い順に3つ選んでください。

（1）第1位

（回答者数=6人）

職務経験	男女別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	会社の品質保証部からの情報
			関連団体の講習会・セミナー等
		50～59歳	大阪府 食の安全安心メールマガジン
			製造メーカーよりの情報
	60～69歳	行政機関に聞く	
業界新聞等			
	女性	50～59歳	原材料メーカー
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	電力会社主催の勉強会に参加し、冊子や専門分野の先生の話の聞いたりする機会を設けている
その他消費者一般	男性	40～49歳	専門の会合や団体主催の講習など

（2）第2位

（回答者数=9人）

職務経験	男女別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	30～39歳	業界紙、学会誌
		40～49歳	食品に関するメールマガジン
		50～59歳	食品メーカーや問屋等に直接電話して確認している。
		60～69歳	組織内の関係部署より
	女性	30～39歳	日本食品添加物協会の会報等、業界雑誌
		60～69歳	講演会 講習会
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	各省庁等のメールマガジン
その他消費者一般	男性	30～39歳	セミナー・講習会
	女性	40～49歳	講演会

(3) 第3位

(回答者数=6人、うち1人が空欄)

職務経験	男女別	年代	回答
食品関係業 務経験者	男性	40～49 歳	講演会など
		50～59 歳	知人とのメール交換
		60～69 歳	各種省庁のメルマガ
	メーカーに直接問い合わせています		
女性	40～49 歳		
その他消費 者一般	女性	40～49 歳	セミナー、シンポジウム等に参加

③情報入手先のインターネットのサイト（問5）

問5 問4で選択肢の「6 インターネット」と回答した方にお聞きします。

インターネットで情報収集する際にどのようなサイトから情報を入手していますか。選択肢1～14の中から利用頻度の高い順に3つを選んでください。

（1）第1位

（回答者数=8人）

職務経験	男女別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	30～39歳	FOOCOM.NET、食品安全情報ブログ、国衛研、食品化学研究振興財団など 検索エンジン
		50～59歳	添加物名で検索しているのでその時々でサイトが変わる。
		60～69歳	厚生労働省のメールマガジン
研究職経験者	男性	40～49歳	用語検索により情報入手をするため、限定されません
		60～69歳	検索機能
医療・教育職経験者	男性	60～69歳	medline による文献検索
その他消費者一般	男性	40～49歳	いろいろな団体のメールマガジン

（2）第2位

（回答者数=4人）

職務経験	男女別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	PubMed
		60～69歳	農林水産省のメールマガジン
	女性	30～39歳	「食品安全情報ブログ」(国立衛研、畝山先生による)
その他消費者一般	女性	30～39歳	メールマガジン

（3）第3位

（回答者数=4人）

職務経験	男女別	年代	回答
食品関係業務経験者	女性	40～49歳	Food Communication Compass
		50～59歳	農水省メルマガ、農水省消費者情報室メルマガ、食品安全エキスプレス、東京都食薬eマガジン
研究職経験者	男性	30～39歳	独立行政法人 農林水産消費安全技術センターからのメールマガジン
その他消費者一般	男性	40～49歳	特に特定でない選択肢にあるようなホームページ

④食品安全委員会ホームページから利用する情報（問6）

問6 問5で選択肢の「3 食品安全委員会のホームページ」と回答した方にお聞きします。
食品安全委員会ホームページのどの情報を得ていますか。選択肢1～10の中から利用頻度の高い順に3つ選んでください。

(回答者数=0人)

⑤子ども向けに発信した方が良いハザードの情報（問7）

問7 問1のA～Nに掲げるハザードについて、子ども向け（主に小中学生を対象とする）に、食品安全委員会から発信した方が良いと思われる事項はありますか。

A～Nのハザードの中から発信した方が良いと思う順（優先順位が高い順）に3つ選んでください。

また、A～Nのハザード以外で、該当するものがあれば、「0 その他」に具体的な例を記入し、それについても、同様に回答してください。

（1）第1位

（回答者数=5人）

職務経験	男女別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	アレルギー
	女性	30～39歳	ない
その他消費者一般	男性	40～49歳	アレルギー
		50～59歳	食糧自給率
	女性	30～39歳	アレルギー

（2）第2位

（回答者数=2人）

職務経験	男女別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	アレルギー物質
その他消費者一般	男性	30～39歳	こんにやくゼリー等の誤飲

（3）第3位

（回答者数=5人）

職務経験	男女別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	50～59歳	アレルギー物質
		60～69歳	黄砂、PM2.5
	女性	40～49歳	アレルギー物質について
その他消費者一般	男性	30～39歳	食物アレルギー
		60～69歳	アレルギー

2) 食品安全委員会発行のメールマガジンについて

①よく読んでいるメールマガジンの項目（問9）

問9 メールマガジン(原則、毎週火曜日配信)についてお聞きします。

あなたがよく読んでいるメールマガジンの項目は、どれですか。選択肢1～6の中から読む頻度の高い順に3つ選んでください。

毎回全ての項目をよく読んでいる場合は選択肢「1」のみ選んでください。

(1) 第1位

(回答者数=6人)

職務経験	男女別	年代	回答
食品関係業務経験者	女性	30～39歳	目次
		40～49歳	特定項目をよく読んでいると言うより、全体に斜め読みをした上で関心がある話題や必要や内容をじっくり読む
研究職経験者	男性	30～39歳	目次
その他消費者一般	女性	30～39歳	重要なお知らせ
		40～49歳	その時興味があるもの 読み物版

(2) 第2位

(回答者数=3人)

職務経験	男女別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	食品安全情報
		70歳以上	地域で開催されるリスクコミュニケーションやリスクフォーラムの案内
その他消費者一般	女性	30～39歳	特に決まっていない

(3) 第3位

(回答者数=3人、うち1人が空欄)

職務経験	男女別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	
医療・教育職経験者	女性	60～69歳	お知らせ
その他消費者一般	女性	30～39歳	特に決まっていない

②メールマガジン読み物版の記事の中で良かった理由（問 14）

問 14 問 13 でメールマガジン読み物版の記事の中で良かった理由はどういうところですか。選択肢 1～6の中から1つ選んでください。

(回答者数=7人)

職務経験	男女別	年代	配信内容	良かった理由
食品関係業務経験者	男性	60～69 歳	1位:夏の食中毒 2位:食品添加物その 1 3位:食品添加物その 2	研修会の参考資料として活用した
	女性	30～39 歳	1位:食べ物に関する各種情報 2位:食品添加物その 2 3位:暑い時期のカビへの対応	解説が分かり易くて読み易かった
医療・教育職経験者	男性	60～69 歳	1位:放射線 2位:食べ物に関する各種情報 3位:食品添加物その 2	普段なかなか知ることができないが身近にある大切な情報が入っているから(通常の食品に含まれるK40, 食べ物の各種情報、添加物は安全とはっきり説明があるところ 等)
	女性	40～49 歳	1位:食べ物に関する各種情報 2位:食品添加物その 2 3位:ノロウイルス[臨時号]	読んで楽しいから
			1位:食べ物に関する各種情報 2位:夏の食中毒 3位:暑い時期のカビへの対応	知らない話が多かったので
女性	30～39 歳	1位:夏の食中毒 2位:食べ物に関する各種情報 3位:食肉の生食リスク	仕事上役立つから	
その他消費者一般	女性	30～39 歳	1位:ノロウイルス[臨時号] 2位:暑い時期のカビへの対応 3位:野外での食中毒	記事番号 4(野外料理でも食中毒に用心を)と 5(暑い時期は「カビ」に注意を)に関しては、時期に応じた役立つ記事だったため、10(冬の食中毒、ノロウイルスにご注意ください)に関しては感染が拡大している時期だったため広く読まれるのは意義があると思い良い記事として選びました

統計表

問 1.1 A 食品添加物の情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	95.4	3.9	0.7

問 1.2 B 農薬の情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	92.6	6.7	0.7

問 1.3 C 抗菌性物質（動物医薬品又は飼料添加物）の情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	74.3	25.0	0.7

問 1.4 D 動物医薬品（Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等）の情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	72.9	26.4	0.7

問 1.5 E 器具・容器包装からの溶出化学物質の情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	86.6	12.7	0.7

問 1.6 F 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）の情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	90.5	8.8	0.7

問 1.7 G 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等の情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	95.8	3.5	0.7

問 1.8 H BSE（伝達性牛海綿状脳症）の情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	82.0	17.3	0.7

問 1.9 I 遺伝子組換えの情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	80.3	19.4	0.4

問 1.10 J 体細胞クローンの情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	68.3	31.0	0.7

問 1.11 K いわゆる健康食品の情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	83.5	15.5	1.1

問 1.12 L 飼料等（Cに該当するものは除く）の情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	62.3	37.0	0.7

問 1.13 M 肥料の情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	60.9	38.4	0.7

問 1.14 N 放射性物質の情報の必要性

	全体	必要がある	必要がない	無回答・無効回答
合計	284	93.7	4.9	1.4

問 2.1 A 食品添加物の情報を必要とする理由

	全体	工作上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	271	14.4	42.8	41.7	1.1	0.0

問 2.2 B 農薬の情報を必要とする理由

	全体	工作上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	263	14.4	40.7	43.0	0.8	1.1

問 2.3 C 抗菌性物質（動物医薬品又は飼料添加物）の情報を必要とする理由

	全体	工作上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	211	17.1	43.1	37.9	1.9	0.0

問 2.4 D 動物医薬品（Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等）の情報を必要とする理由

	全体	工作上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	207	17.9	43.0	36.7	1.9	0.5

問 2.5 E 器具・容器包装からの溶出化学物質の情報を必要とする理由

	全体	工作上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	246	14.6	45.1	39.0	0.8	0.4

問 2.6 F 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）の情報を必要とする理由

	全体	工作上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	257	10.9	49.4	38.9	0.4	0.4

問 2.7 G 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等の情報を必要とする理由

	全体	工作上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	272	11.4	41.5	44.9	1.1	1.1

問 2.8 H BSE（伝達性牛海綿状脳症）の情報を必要とする理由

	全体	工作上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	233	12.0	47.6	38.6	1.3	0.4

問 2.9 I 遺伝子組換えの情報を必要とする理由

	全体	仕事上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	228	12.3	45.2	40.4	1.8	0.4

問 2.10 J 体細胞クローンの情報を必要とする理由

	全体	仕事上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	194	11.3	52.6	34.0	1.5	0.5

問 2.11 K いわゆる健康食品の情報を必要とする理由

	全体	仕事上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	237	9.3	46.0	43.0	0.8	0.8

問 2.12 L 飼料等（Cに該当するものは除く）の情報を必要とする理由

	全体	仕事上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	177	18.1	45.8	33.3	1.1	1.7

問 2.13 M 肥料の情報を必要とする理由

	全体	仕事上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	173	13.9	42.8	39.9	1.7	1.7

問 2.14 N 放射性物質の情報を必要とする理由

	全体	仕事上知っておくべきだから	日常生活において知っておくべきだから	仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから	その他	無回答・無効回答
合計	266	9.4	43.2	45.1	1.9	0.4

問 3.1 A 食品添加物の情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	271	55.0	42.8	1.5	0.7

問 3.2 B 農薬の情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	263	35.0	57.4	5.3	2.3

問 3.3 C 抗菌性物質（動物医薬品又は飼料添加物）の情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	211	24.6	64.0	10.4	0.9

問 3.4 D 動物医薬品（Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等）の情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	207	24.2	61.4	13.5	1.0

問 3.5 E 器具・容器包装からの溶出化学物質の情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	246	27.2	61.8	10.2	0.8

問 3.6 F 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）の情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	257	24.1	67.3	6.2	2.3

問 3.7 G 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等の情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	272	47.8	47.4	3.3	1.5

問 3.8 H BSE（伝達性牛海綿状脳症）の情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	233	31.3	61.4	6.4	0.9

問 3.9 I 遺伝子組換えの情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	228	34.2	60.5	4.4	0.9

問 3.10 J 体細胞クローンの情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	194	16.0	72.7	9.8	1.5

問 3.11 K いわゆる健康食品の情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	237	44.3	51.9	2.5	1.3

問 3.12 L 飼料等（Cに該当するものは除く）の情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	177	14.7	66.7	17.5	1.1

問 3.13 M 肥料の情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	173	16.2	62.4	20.2	1.2

問 3.14 N 放射性物質の情報収集状況

	全体	自ら積極的に情報収集している	新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している	情報収集していない	無回答・無効回答
合計	266	49.6	47.7	1.9	0.8

問 4.1 ハザード情報の収集源（第1位）

	全体	一般の雑誌・書籍	専門書・学術書	新聞	食品安全委員会の季刊誌	テレビ	インターネット	その他	無回答・無効回答
合計	211	6.6	13.7	8.1	7.6	4.3	53.1	4.3	2.4

問 4.2 ハザード情報の収集源（第2位）

	全体	一般の雑誌・書籍	専門書・学術書	新聞	食品安全委員会の季刊誌	テレビ	インターネット	その他	無回答・無効回答
合計	211	15.6	19.4	22.7	11.8	5.7	15.6	4.3	4.7

問 4.3 ハザード情報の収集源（第3位）

	全体	一般の雑誌・書籍	専門書・学術書	新聞	食品安全委員会の季刊誌	テレビ	インターネット	その他	無回答・無効回答
合計	211	14.2	12.8	20.4	17.5	8.5	16.6	2.8	7.1

問 5.1 情報入手先のインターネットのサイト（第 1 位）

	全体	ニュースサイト	コミュニティサイト等 (ソーシャル・ネット ワーキング・サービ ス(SNS)・ ブログ等)	食品安全 委員会の ホームペ ージ	食品安全 委員会の メールマガ ジン	消費者庁 のホーム ページ	厚生労働 省のホーム ページ	農林水産 省のホーム ページ	保健所な ど地方自 治体のホ ームペー ジ
合計	180	18.3	5.0	14.4	9.4	1.7	24.4	9.4	2.2
		消費者団 体のホーム ページ	生産者・生 産者団 体のホーム ページ	製造業者・ 製造業者 団体のホ ームペー ジ	販売事業 者・販売事 業者団 体のホーム ページ	大学・研究 機関・研究 所のホーム ページ	その他	無回答・無 効回答	
		0.0	1.1	2.8	0.0	5.0	4.4	1.7	

問 5.2 情報入手先のインターネットのサイト（第 2 位）

	全体	ニュースサイト	コミュニティサイト等 (ソーシャル・ネット ワーキング・サービ ス(SNS)・ ブログ等)	食品安全 委員会の ホームペ ージ	食品安全 委員会の メールマガ ジン	消費者庁 のホーム ページ	厚生労働 省のホーム ページ	農林水産 省のホーム ページ	保健所な ど地方自 治体のホ ームペー ジ
合計	180	5.0	6.1	18.3	10.0	5.0	16.7	16.7	4.4
		消費者団 体のホーム ページ	生産者・生 産者団 体のホーム ページ	製造業者・ 製造業者 団体のホ ームペー ジ	販売事業 者・販売事 業者団 体のホーム ページ	大学・研究 機関・研究 所のホーム ページ	その他	無回答・無 効回答	
		0.6	2.2	2.8	2.8	4.4	2.2	2.8	

問 5.3 情報入手先のインターネットのサイト（第 3 位）

	全体	ニュースサイト	コミュニティサイト等 (ソーシャル・ネット ワーキング・サービ ス(SNS)・ ブログ等)	食品安全 委員会の ホームペ ージ	食品安全 委員会の メールマガ ジン	消費者庁 のホーム ページ	厚生労働 省のホーム ページ	農林水産 省のホーム ページ	保健所な ど地方自 治体のホ ームペー ジ
合計	180	7.8	2.8	21.7	5.6	11.7	7.2	7.8	6.7
		消費者団 体のホーム ページ	生産者・生 産者団 体のホーム ページ	製造業者・ 製造業者 団体のホ ームペー ジ	販売事業 者・販売事 業者団 体のホーム ページ	大学・研究 機関・研究 所のホーム ページ	その他	無回答・無 効回答	
		5.0	2.2	4.4	0.6	8.3	2.2	6.1	

問 6.1 食品安全委員会ホームページで提供されている情報の利用頻度（第1位）

	全体	重要なお知らせ・お知らせ・新着情報	食品安全総合情報システム	専門調査会別情報	食品健康影響評価(リスク評価)	ハザード情報	消費者の方向け情報・お母さんになるあなたへ・キッズボックス
合計	98	65.3	9.2	4.1	11.2	9.2	0.0
		動画配信などビジュアル資料	「食の安全ダイヤル」によくある質問とその答え	食品安全モニターからの報告	その他	無回答・無効回答	
		0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	

問 6.2 食品安全委員会ホームページで提供されている情報の利用頻度（第2位）

	全体	重要なお知らせ・お知らせ・新着情報	食品安全総合情報システム	専門調査会別情報	食品健康影響評価(リスク評価)	ハザード情報	消費者の方向け情報・お母さんになるあなたへ・キッズボックス
合計	98	11.2	16.3	13.3	28.6	19.4	3.1
		動画配信などビジュアル資料	「食の安全ダイヤル」によくある質問とその答え	食品安全モニターからの報告	その他	無回答・無効回答	
		2.0	3.1	3.1	0.0	0.0	

問 6.3 食品安全委員会ホームページで提供されている情報の利用頻度（第3位）

	全体	重要なお知らせ・お知らせ・新着情報	食品安全総合情報システム	専門調査会別情報	食品健康影響評価(リスク評価)	ハザード情報	消費者の方向け情報・お母さんになるあなたへ・キッズボックス
合計	98	8.2	5.1	10.2	18.4	19.4	10.2
		動画配信などビジュアル資料	「食の安全ダイヤル」によくある質問とその答え	食品安全モニターからの報告	その他	無回答・無効回答	
		4.1	14.3	8.2	0.0	2.0	

問 7.1 子供向けに発信した方が良いハザードの情報（第1位）

	全体	A 食品添加物	B 農薬	C 抗菌性物質(動物医薬品又は飼料添加物)	D 動物医薬品(Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等)	E 器具・容器包装からの溶出化学物質	F 汚染物質(カドミウム、メチル水銀等)	G 有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等	H BSE(伝達性牛海綿状脳症)
合計	284	32.0	1.1	0.7	0.4	0.4	1.1	32.0	0.4
		I 遺伝子組換え	J 体細胞クローン	K いわゆる健康食品	L 飼料等(Cに該当するものは除く)	M 肥料	N 放射性物質	O その他	無回答・無効回答
		0.7	0.0	6.7	0.0	0.0	20.8	1.8	2.1

問 7.2 子供向けに発信した方が良いハザードの情報（第 2 位）

	全体	A 食品添加物	B 農薬	C 抗菌性物質(動物医薬品又は飼料添加物)	D 動物医薬品(Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等)	E 器具・容器包装からの溶出化学物質	F 汚染物質(カドミウム、メチル水銀等)	G 有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等	H BSE(伝達性牛海綿状脳症)
合計	284	23.9	9.5	0.7	0.7	4.2	5.6	16.9	2.1
		I 遺伝子組換え	J 体細胞クローン	K いわゆる健康食品	L 飼料等(Cに該当するものは除く)	M 肥料	N 放射性物質	O その他	無回答・無効回答
		7.0	0.4	14.4	0.0	0.7	9.5	0.7	3.5

問 7.3 子供向けに発信した方が良いハザードの情報（第 3 位）

	全体	A 食品添加物	B 農薬	C 抗菌性物質(動物医薬品又は飼料添加物)	D 動物医薬品(Cを除く、駆虫剤、ホルモン剤等)	E 器具・容器包装からの溶出化学物質	F 汚染物質(カドミウム、メチル水銀等)	G 有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等	H BSE(伝達性牛海綿状脳症)
合計	284	14.4	9.9	1.8	1.1	6.3	6.3	9.9	1.8
		I 遺伝子組換え	J 体細胞クローン	K いわゆる健康食品	L 飼料等(Cに該当するものは除く)	M 肥料	N 放射性物質	O その他	無回答・無効回答
		7.7	1.4	13.0	0.4	0.0	20.8	1.8	3.5

問 8 食品安全委員会が発行しているメールマガジン及びメールマガジン読み物版の配信登録の有無

	全体	配信を受けている	配信を受けていない(インターネット利用環境にない方を含む)	無回答・無効回答
合計	284	83.1	16.5	0.4

問 9.1 よく読んでいるメールマガジンの項目（第 1 位）

	全体	全て	食品安全委員会などの開催結果	食品安全委員会などの開催案内	リスクコミュニケーション	編集後記	その他	無回答・無効回答
合計	236	40.3	19.1	14.0	21.2	2.5	2.5	0.4

問 9.2 よく読んでいるメールマガジンの項目（第 2 位）

	全体	全て	食品安全委員会などの開催結果	食品安全委員会などの開催案内	リスクコミュニケーション	編集後記	その他	無回答・無効回答
合計	236	4.2	24.2	11.4	21.2	3.8	1.3	33.9

問 9.3 よく読んでいるメールマガジンの項目（第 3 位）

	全体	全て	食品安全委員会などの開催結果	食品安全委員会などの開催案内	リスクコミュニケーション	編集後記	その他	無回答・無効回答
合計	236	6.4	8.5	16.1	12.7	19.5	1.3	35.6

問 10 メールマガジンの掲載内容の分かりやすさ

	全体	分かりやすい	どちらかという と分かりやすい	どちらかという と分かりにくい	分かりにくい	無回答・無効回答
合計	236	16.9	52.1	27.1	3.8	0.0

問 11 メールマガジン読み物版の分かりやすさ

	全体	分かりやすい	どちらかという と分かりやすい	どちらかという と分かりにくい	分かりにくい	無回答・無効回 答
合計	236	37.7	48.7	12.7	0.8	0.0

問 12 メールマガジン読み物版の配信文字数

	全体	多い	普通	少ない	無回答・無効回 答
合計	236	16.5	78.4	4.7	0.4

問 13.1 メールマガジン読み物版の記事で良かった記事（第 1 位）

	全体	食品の生食リ スク(平成 24 年 4 月)	放射線(平成 24 年 5 月)	夏の食中毒 (平成 24 年 6 月)	野外での食中 毒(平成 24 年 7 月)	暑い時期のカ ビへの対応 (平成 24 年 8 月)	食べ物に関す る各種情報 (平成 24 年 9 月)
合計	236	19.9	16.5	9.3	1.7	5.5	6.8
		食べものと放 射性物質のは なし(平成 24 年 10 月)	食品添加物そ の 1(平成 24 年 11 月)	食品添加物そ の 2(平成 24 年 12 月)	ノロウイルス [臨時号](平成 24 年 12 月 5 日)	無回答・無効 回答	
		21.2	3.4	0.0	15.7	0.0	

問 13.2 メールマガジン読み物版の記事で良かった記事（第 2 位）

	全体	食品の生食リ スク(平成 24 年 4 月)	放射線(平成 24 年 5 月)	夏の食中毒 (平成 24 年 6 月)	野外での食中 毒(平成 24 年 7 月)	暑い時期のカ ビへの対応 (平成 24 年 8 月)	食べ物に関す る各種情報 (平成 24 年 9 月)
合計	236	17.8	11.9	5.5	8.1	6.8	6.4
		食べものと放 射性物質のは なし(平成 24 年 10 月)	食品添加物そ の 1(平成 24 年 11 月)	食品添加物そ の 2(平成 24 年 12 月)	ノロウイルス [臨時号](平成 24 年 12 月 5 日)	無回答・無効 回答	
		16.9	6.8	5.5	14.4	0.0	

問 13.3 メールマガジン読み物版の記事で良かった記事（第 3 位）

	全体	食品の生食リ スク(平成 24 年 4 月)	放射線(平成 24 年 5 月)	夏の食中毒 (平成 24 年 6 月)	野外での食中 毒(平成 24 年 7 月)	暑い時期のカ ビへの対応 (平成 24 年 8 月)	食べ物に関す る各種情報 (平成 24 年 9 月)
合計	236	11.9	4.2	11.4	5.1	11.0	9.3
		食べものと放 射性物質のは なし(平成 24 年 10 月)	食品添加物そ の 1(平成 24 年 11 月)	食品添加物そ の 2(平成 24 年 12 月)	ノロウイルス [臨時号](平成 24 年 12 月 5 日)	無回答・無効 回答	
		13.6	6.8	7.6	18.6	0.4	

問 14 メールマガジン読み物版の記事の中で良かった理由

	全体	日常生活に 役立つから	日頃の関 心事項に沿 ったものだ から	身の回り の方々に情 報提供でき るから	子どもに教 えるのに役 立つから	時期に応じ た話題が提 供されてい るから	その他	無回答・無 効回答
合計	236	14.0	34.7	20.3	0.4	26.7	3.0	0.8

問 15 2 種類のメールマガジン配信について

	全体	メールマガジン (原則、毎週火 曜日配信)のみ 配信を受けたい	メールマガジン 読み物版(昨年 (平成 24 年)11 月以降毎月 2 回 配信)のみ配信 を受けたい	両方配信を受け たい	両方配信は不要	無回答・無効回 答
合計	236	6.8	8.9	80.5	3.0	0.8